

高校進学の現在 ~ 1988年との対比 ~

高校入試は、かつての「偏差値」輪切りの厳しい時代から、今日では推薦入試や面接、作文の増加など、生徒の力を多面的にみる選抜方法を採用する割合が増えてきた。また一方では、「よい進学先 よい就職 幸せな人生」というシナリオが崩れ、生徒にとっての高校進学の意味も変化してきていることが予想される。こうした高校入試の制度的な変化と社会構造の変化は、中学3年生の高校進学への意識や行動にどのような影響を与えているのだろうか。

1988年調査との比較

1988年調査の「高校進学～『15の春』の実態を探る～」（『モノグラフ・中学生の世界』vol.30）は、高校受験を終えたばかりの中学3年生に、高校受験についての意識を尋ねた。今回の調査もまったく同じ調査項目にオリジナル項目を一部加え、ほぼ同じ中学校に調査を依頼した。（今回実施14校は、1988年実施の15校中11校が同じ中学校、その他の3校も当時と同様の地域に依頼）

調査概要

対象 埼玉・千葉・東京・神奈川の中学校14校の3年生 時期 2002年3月
方法 学校通しによる質問紙調査 サンプル数 1,655名（男子857名、女子798名）

現在も高校入試はプレッシャーがかかる

「合格できるかどうか不安」と感じる生徒は1988年調査とほとんど変わらず全体の3分の2を占める。また、「入試を考えると、勉強が手につかない」「志望校への合格が不安」と感じる生徒はいずれも1988年調査と変わらず、全体の半分以上を占める。

学習時間の変化（全体としての減少と2極化の傾向）

中3の2学期、平日の学習時間は1988年調査と比べて15分ほど短縮されている。学校のある土曜日でも25分短縮されている。日曜日の学習時間は、学力の高い高校へ進学する生徒とそうでない高校へ進学する生徒との間で大きな差がある。

進学にあたっての学校離れ

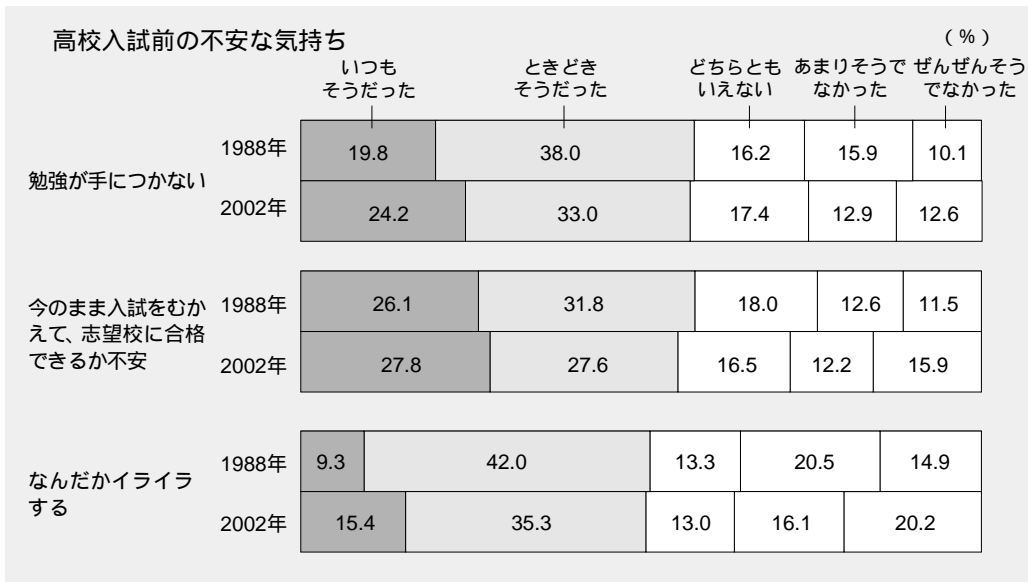
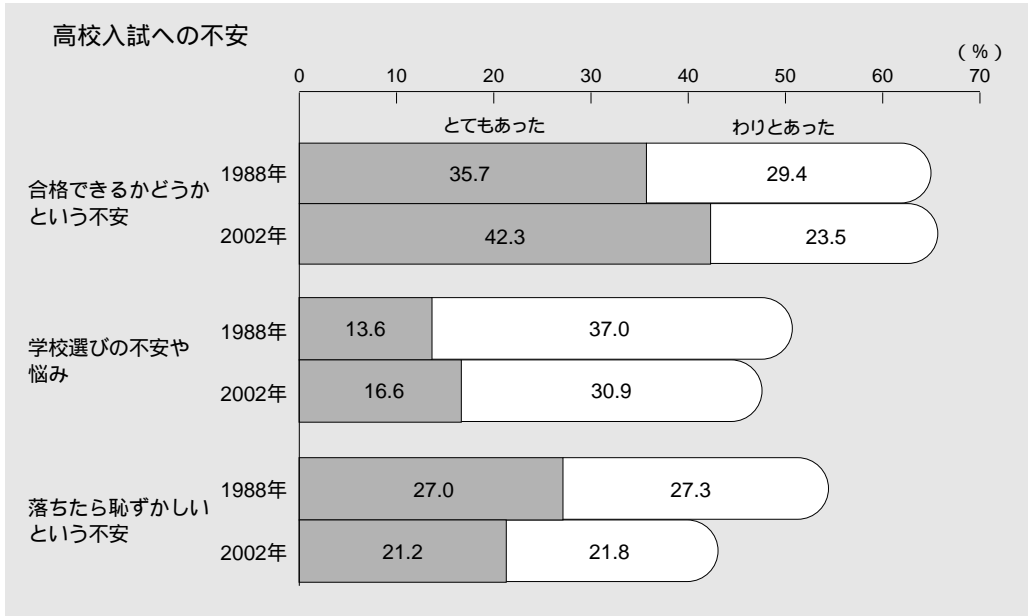
週に3日以上塾通いをする生徒の増加とともに塾での学習が「大変役立った」と思う割合も増加。また、「塾に行った方が進学に有利である」と答える割合も増加。勉強の相談相手として塾の先生を回答する割合も大幅に増加した。

高校への期待感が高い

「入学したかった学校」に合格できた生徒の割合が65.9%で、1988年調査の51.0%と比べて増加している。高校へ行ったら、「学校行事に積極的に参加したい」と思う割合が増加しているなど、進学してからの生活に希望を抱く生徒の割合が多くなった。

TOPIC 1

現在も高校入試はプレッシャーがかかる (⇒p.38・39)

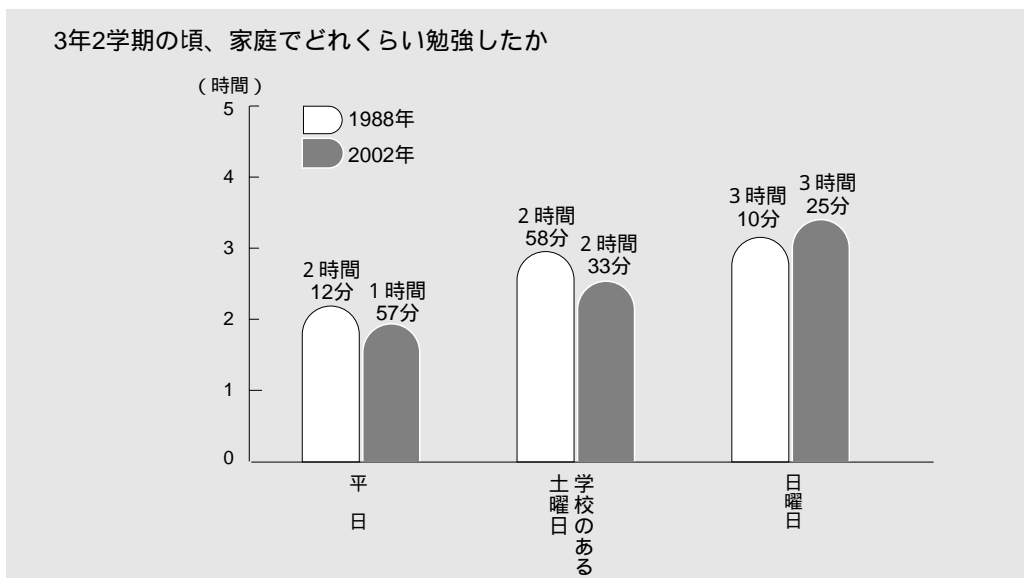


高校入試へのプレッシャーは1988年調査時点とほぼ変わらない。

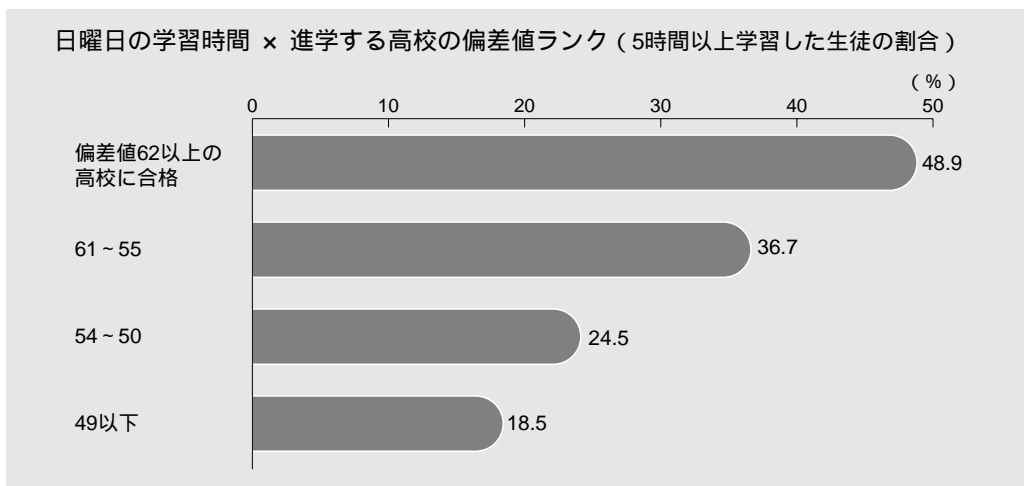
TOPIC 2

学習時間の変化 (全体としての減少と2極化の傾向)

平日の学習時間の減少(⇨p.11)



日曜日の学習時間は2極化(⇨p.20)



日曜日の学習時間は、学力の高い高校へ進学する生徒とそうでない高校へ進学する生徒との間で2極化の傾向がある。(進学する高校の偏差値ランクに関する解説はp.19参照)

TOPIC 3

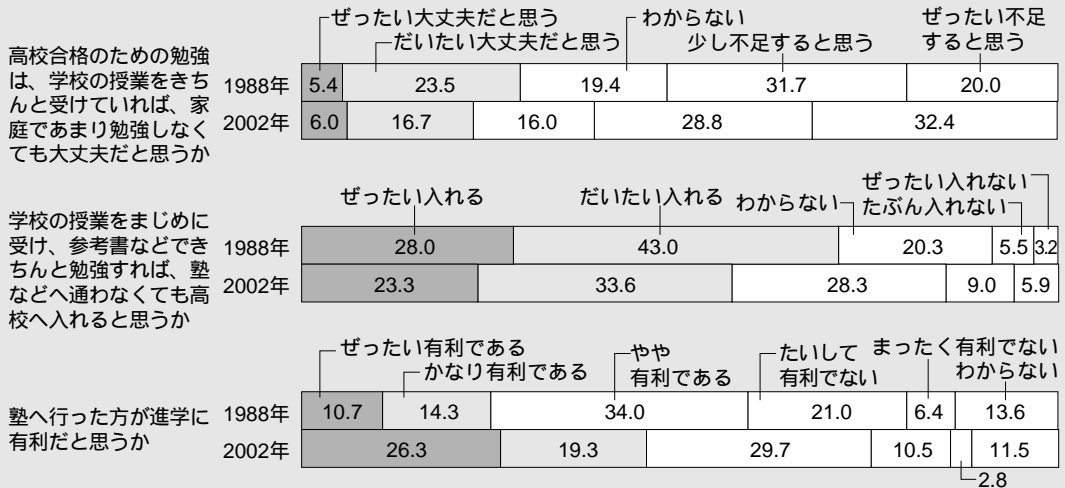
進学にあたっての学校離れ

(⇒p.13)

塾に行った方が有利

入試の勉強における、学校の授業と塾についての意見

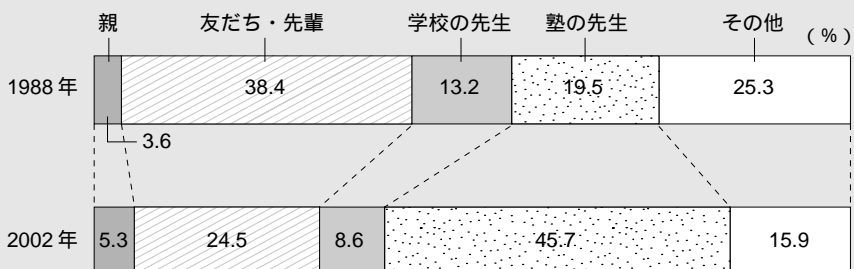
(%)



上記のデータの他に、週に3日以上塾通いをする生徒は、1988年調査の30.7%から2002年調査の51.9%へ増加したり、塾での学習が「大変役立った」と思う割合が30.2%から64.6%へ増加するなど、塾に行った方が有利と答える割合が増加している。(⇒p.12)

塾の先生が相談相手

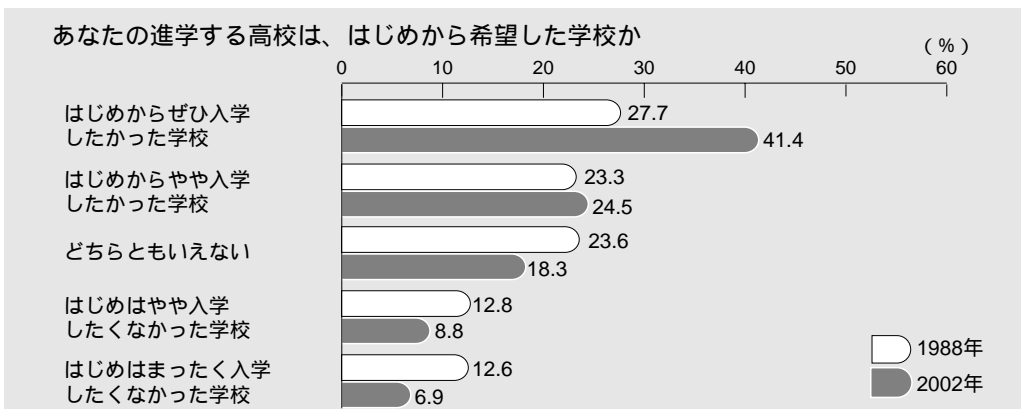
勉強の仕方がわからなくなったとき、誰に相談したり話をしたりしたのが最も役に立ったか



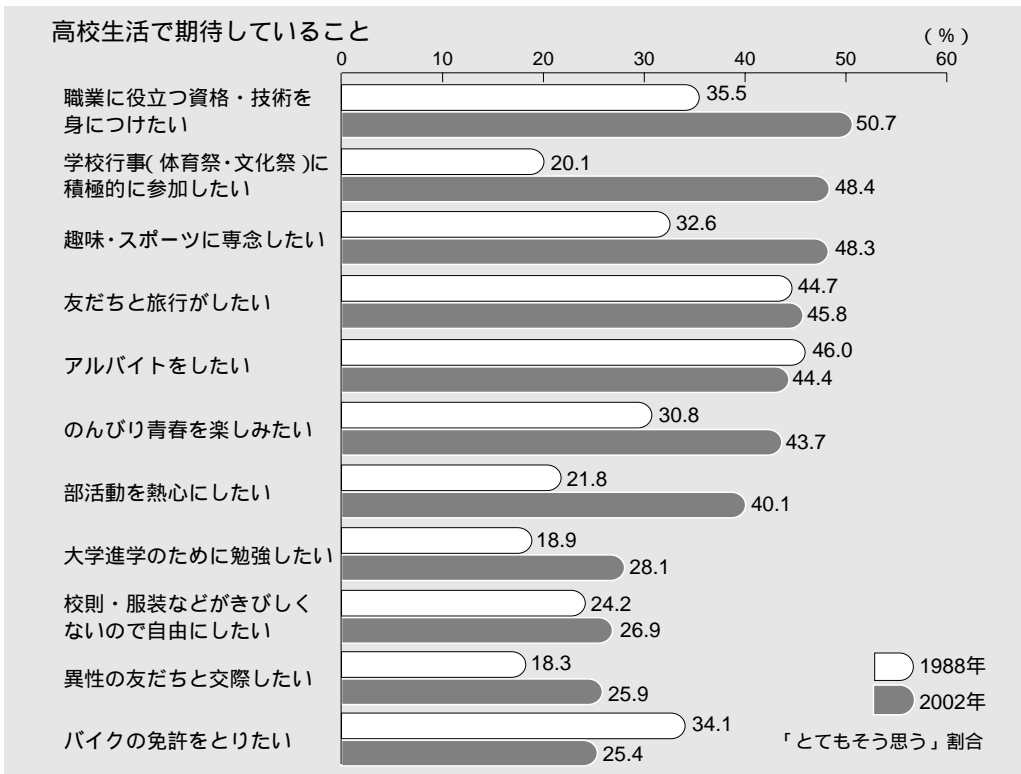
TOPIC 4

明るい高校生活を期待している

志望通りの進学 (⇒p.10)



高校への期待度は高い (⇒p.16)



これからの中学校現場での指導

調査結果が示唆するもの

今回の結果によると、現在の生徒も高校受験に以前と同じようなプレッシャーを感じていた。しかし、全体としては、現在の高校進学に明るさを感じた。自分の希望する高校に入れたと思っている生徒が3分の2に達し、高校に入れたら部活動や学校行事をがんばりたいと考えている。希望に燃えて進学している感じである。臆を決しての受験でなく、マイペースの穏やかな受験風景である。

そうした中で、中学生が学校離れをして学習塾へ依存する傾向を強めているのが気になる。もちろん、業者テストが廃止され、成績についての客観的なデータを持っていないので、進学相談にのりにくいのかもかもしれないが、生徒たちが進学に不安を抱いているのであるから、生徒から信頼されるように学校として手を打つべきであろう。

1 より広範な進学情報の収集

選抜試験が多様化しているだけに、高校についての情報を積極的に集め、受験に対応する必要がある。

2 個別の指導の徹底化

生徒は情報に振り回され、進路に迷っている。それだけに、生徒が進路について確信を持てるように、一人一人の進路相談を徹底してほしい。

3 保護者との連携を密接に

進学状況の変動に、保護者は当惑していよう。保護者に最新の情報を伝え、保護者とともに生徒の進路を考える体制を整備するべきであろう。

序章

「15の春」はなくなったのか

深谷昌志

1. 普通科進学への傾斜

「15の春」という言い方があった。高校受験が厳しく、長い期間の受験勉強を強いられる。そうした時間の末、悲喜こもごも結果をもたらされる。「15の春」には、望みの学校へ入れた喜びより、努力が報われずに失意の中にある涙や悲しみが大きなウエイトを占めたような思いが強い。

しかし、このところ高校受験が緩和され、中学3年生はのんびりと高校へ進学しているような印象を受ける。中学の先生に話を聞いても、受験生らしいのは難関の高校を目指す一部の生徒くらいで、残りの生徒はなんとなく時間を過ごしているようにみえるという。

高校受験に臨む生徒の意識はさまざまな要因によって変化しているのであろう。現在の高校進学をとらえるために、あらためて、ここ半世紀の高校進学の状況を概観すると、表1の通りとなる。

昭和30年、高校進学率は51.5%で、就職者が半数に迫っている。その後、昭和40年になると、高校進学率が7割に達するが、「同一年齢の試算」の欄が示すように、15歳人口が、普通科進学、職業科進学、非進学に3分されているのがわかる。

その後、昭和50年に進学率は9割を超えると同時に、年を追って、普通科への傾斜が強まってくる。そして平成13年には、71%が普通科へ進学している。96.9%のようにほぼ全員が高校へ進学すると同時に、7割以上が普通科に進学する時代である。

2. 受験プレッシャーの弱まり

高校進学の雰囲気が変わってきた背景に、少子化による人口減少がみられるのは周知の通りであろう。念のために、人口の推移を示すと、表2の通りとなる。

1973年生まれの団塊ジュニア209万人を100とした場合、それから十数年を経た1990年生まれば122万人で、進学年齢層は58.4%とほぼ6割に減少している。

高校の場合、公立を中心に、受験者減に対応して定員の調節を行っているので、人口減がそのままの形で受験の緩和になるとはいえない。しかし、私立学校の定員減はストレートでは進まないし、公立の定員減も人口減に連動して行われるものではない。そうした意味では、この10年来、少子化が進むにつれ、入試の厳しさが弱まり、進学に対する不安が薄れているのは確かであろう。

表1 高校進学の推移

		昭和30年	40年	50年	60年	平成7年	10年	13年
		(%)						
高校進学率		51.5	70.7	91.9	94.1	96.7	96.8	96.9
学科別在籍率	普通	59.8	59.5	63.0	72.1	74.2	73.6	73.0
	商業	14.3	16.9	14.5	11.3	9.5	8.9	8.3
	工業	9.2	12.3	11.8	9.3	8.8	8.8	8.8
	農業	7.8	5.2	4.5	3.0	2.8	2.8	2.8
	その他	8.8	6.1	6.3	4.3	4.7	5.9	7.1
同一年齢の試算	普通科在籍率	31	42	58	68	72	71	71
	職業科	21	29	34	26	25	26	26
	非進学	48	29	8	6	3	3	3
大学進学率		18.4	25.4	34.2	30.5	37.6	42.5	45.1

昭和59年以前は通信制課程（本科）への進学者を除いた%
昭和59年以前は通信教育部への進学者を除いた%

（『文部科学統計要覧』より作成）

こうした状況は、大学進学にもあてはまる。大学進学は高校とは3年の時差があると同時に、進学率も高校のように97%を超えるような高さでないから、高校受験と同じような類型化はできないが、単純なシミュレーションを考えてみよう。仮に10,000人の受験者がいて、1,000人ずつ、10の大学に進学していたとする。現在の大学進学人口は、ピーク時の7割程度なので、進学人口が7,000人となり、入学者が7割となると思う。しかし、実際にはすべての大学の入学者が7割になるわけではない。

1) 1,000人 × 4 大学 = 4,000人

3,000人 ÷ 6 大学 = 500人 5 割

たとえばトップの4大学が名門なので、これまでと同じように、1,000人が受験したとする。そうすると、残りの3,000人を6大学で分配するので、平均的な入学率は5割となる。

2) 1,000人 × 3 大学 = 3,000人

800人 × 3 大学 = 2,400人

1,600人 ÷ 4 大学 = 400人 4 割

あるいは、トップの3大学は定員通りで、中堅3大学が定員の8割をとるといった形も考えられる。そうすると、残り4大学への志願者は4割となる。つまり、4大学は廃学に追い込まれる状況になる。

さらにこれから数年後、大学進学者はピーク時の6割となるだろう。そうすると、3)のように、下位の4大学の入学者は2割を下回る。

3) 1,000人 × 3 大学 = 3,000人

800人 × 3 大学 = 2,400人

600人 ÷ 4 大学 = 150人 2 割弱

こうした状況では多くの大学は学生集めに奔走し、入試どころではなくなる。受験生からすると、難関大学を除けば、どこの大学にも進学できそう

な感じになり、受験のプレッシャーは軽減されよう。

本稿のテーマに則していうなら、中学3年生は、高校だけでなく、大学も簡単に進学できそうだと思う、「何とかなるさ」という気持ちになる。進学にプレッシャーを感じない生徒が多いのではないか。

3. 調査のデザイン

長い間、進学は学校教育の出口として機能してきた。少しでもよい学校へ進みたい。そうした生徒の気持ちを前提として、生徒指導が行われていたように思う。もちろん、あまりに苛烈な受験は生徒の心身を損ないやすいから、進学難の解消が説かれてきた。しかし、現在のように、なんとなく高校進学ができるようになると、進学のプレッシャーがかからない。そうすると、チャレンジする機会が失われたようで、「入試は心を鍛える機会でもある」というような気持ちも湧いていく。

そこで、現在の高校受験はどうなっているのか。本当に受験のプレッシャーは解消したのかを確かめてみたいと思った。

ただ、現在の状況だけでは、受験のプレッシャーが弱まったのかわからないので、高校受験についての過去のデータと対比させて、現状をとらえてみたいと思った。

「高校進学～『15の春』の実態を探る～」(『モノグラフ・中学生の世界』Vol.30)は、昭和63年(1988年)に実施された。このときの調査は、高校受験を終えた中学3年生に、高校受験についての意識を尋ねる形をとった。具体的には、入試も終わり、結果のわかった3月に調査票を配布し、高校入試を振り返るもので、東京近郊の15中学の3年生2,220名に協力を仰いだ。

今回も同じ形式を受け継ぎ、高校受験の結果が出た3月に、中学3年生に高校受験について尋ねる調査を行うことにした。調査票は前回との比較を意識して、前回とまったく同じ項目と今回のオリジナルな項目とを混ぜる形をとった。

なお、高校受験は地域によって状況が異なるので、前回に調査を実施した同じ中学に再度調査を依頼することにした。そして、14校のうち、11校の協力を得ることができた。また辞退した3校の代わりに隣接する中学に調査を依頼できた。したがって、今回は、1988年調査とほぼ同じ地域の中学に調査を依頼できたので、同じ地域の中学3年生に高校受験についての意識を尋ね、1988年と2002年との比較を試みることができる。

表2 人口の推移

西暦	出生数	合計特殊出生率	
1949	270万	4.32 (団塊のピーク)	%
1973	209	2.14 (団塊ジュニアのピーク)	100.0
1975	190	1.91	90.9
1980	158	1.75	78.6
1984	149	1.81	71.3
1985	143	1.76	68.4
1990	122	1.54	58.4
1995	119	1.42	56.9
2000	119	1.34	56.9
2001	117	1.33	56.0

(厚生労働省『人口動態統計』より作成)

第1章

14年前との比較を中心に

山田 剛

今回の調査は、1988年に実施された調査（『モノグラフ・中学生の世界』Vol.30「高校進学～『15の春』の実態を探る～」）との比較を目的の1つに実施した。首都圏のほぼ同じ地域の同じ学校（調査対象14校中11校が同じ学校で、残りの3校も前回の学校と同じ地域から選択）を調査対象とし、同じ中学3年の卒業直前の3月を調査時期にすることで、なるべく時間的な変化をみられるようにした。

この14年間で高校進学を取り巻く環境は大きく変化している。経済不況、少子化や大学の進学率の上昇、生き方なり方を中心とした進路指導の方針転換など、その変化は1つの方向に向いているというよりは複雑な様相をみせているように思える。その中で子どもたちの高校進学は、実際のところ、どのように変化したのだろうか。

また、最近では学習離れということがいわれ、学習時間の減少は定説のようにになっている。果たして高校受験を前にした中学3年生という時期でも同様の傾向が確認できるだろうか。一方で進学塾の人気は衰えた印象はない。こうした相矛盾するようにみえることは、実際のところどうなっているのだろうか。

これらの疑問のすべてに答えることは1つの調査では限界があるが、こうした問題意識を持ちつつ、今回得られたデータをみていきたい。

表1-1 実際に進学した学校について
(1988年との比較)

	(%)	
	1988年	2002年
公立高校	66.8	66.0
私立高校	33.2	34.0
共学	68.1	83.9
別学	31.9	16.1
単願	43.8	54.7
併願	56.2	45.3

1. 進学状況

まず1988年調査と2002年調査の調査対象で、進学状況について、どの程度の変化がみられたか確認しておく。

進学する者の割合は、すでに1988年調査で97.7%に達しており、今回の98.0%と変わらない。表1-1で比較すると、進学する学校の公立と私立の割合は変わらないが、共学の割合は15%ほど増えている。また、単願が10%強増えたのは、経済不況の影響であろうか。

表1-2は、進学する高校ははじめから希望した学校かを聞いた結果を比較している。これをみると、「はじめからぜひ入学したかった学校」の割合が1988年調査の27.7%から2002年調査では41.4%とかなり増えている。

また、表1-3の将来の進路をみると、「難しい4年制大学」「まあまあの4年制大学」が1988年調査との比較でそれぞれ5.7%、5.3%増えた。データでみる限り、1988年調査と比較すると、自分の希望した高校への進学が実現し、かつ、将来の進路を高めを考えていることになる。少子化と大学の進学率の上昇により高望みをしなければ大学へ行ける時代になったといわれる。そのため進学アスピレーションが弱まっているといわれる

表1-2 進学する高校は、はじめから希望した学校か(1988年との比較)

	(%)	
	1988年	2002年
はじめからぜひ入学したかった学校	27.7	41.4
はじめからやや入学したかった学校	23.3	24.5
どちらともいえない	23.6	18.3
はじめはやや入学したくなかった学校	12.8	8.8
はじめはまったく入学したくなかった学校	12.6	6.9

が、今回のサンプルのデータをみる限り、それほど単純ではないことを予感させる。この点については後で触れることにし、ここでは傾向を確認するに止めたい。

2. 受験に向けての勉強時間

これまで多くの調査が、子どもたちの勉強時間が減ってきていることを示している。今回のサンプル、首都圏の中学3年生という対象でも同じことが言えるだろうか。

表1-4は勉強時間を比較したものである。これを見ると、14年前と比べて、勉強時間が減っていることがわかる。平日は平均で15分、学校のある土曜日が25分減り、日曜日が逆に15分増加している。1週間に換算すると、約1時間30分弱減ったことになる。それに対して、睡眠時間は約40分

減っていて、寝る時間はそれだけ遅くなっている(表1-5)。14年前と比べて、受験生の生活は夜型になっているが、それは勉強時間とは別のことが原因のようである。

受験勉強を開始する時期はどうであろうか。図1-1は、受験を意識して勉強に力を入れ始めた時期を14年前と比較したものである。ここでは、さほど大きな差とはいえないが、2002年調査の方が受験を意識する時期がやや早い。「3年の夏休みに入って」と「3年の2学期後半になって」の2つに山があることはどちらの年も変わらないが、2002年調査の方が「3年の夏休みに入って」の割合が5.9%高くなっている。2002年調査の中学3年生の方が、全体としての勉強時間は少なくなっているが、その一方で早い時期に受験のことを考えるようになってきている。

もう少し内容面、ここでは学校外での4つの勉

表1-3 将来どんな進路に進むつもりか (1988年との比較)

	(%)	
	1988年	2002年
中学または高校までで就職したい	18.3	12.3
専門学校へ行くつもり	21.9	24.8
短期大学へ行くつもり	15.3	7.4
まあまあの4年制大学へ行くつもり	29.8	35.1
難しい4年制大学へ行くつもり	14.7	20.4

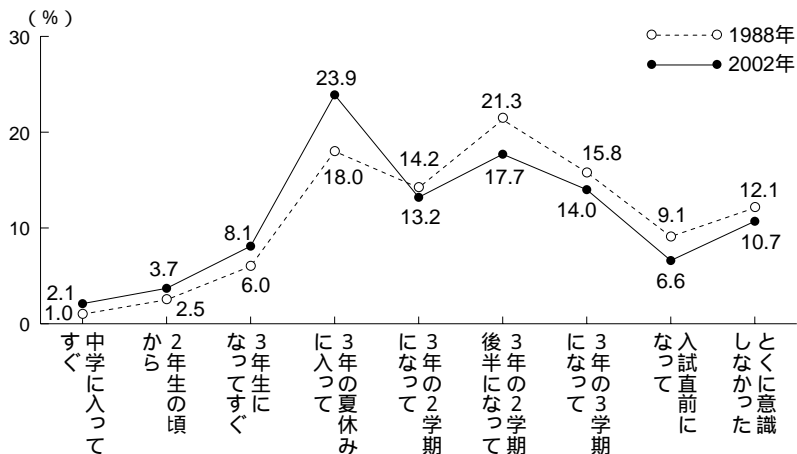
表1-4 2学期の頃、家庭でどれくらい勉強したか (1988年との比較)

	(%)	
	1988年	2002年
平日	2時間12分	1時間57分
学校のある土曜日	2時間58分	2時間33分
日曜日	3時間10分	3時間25分

表1-5 2学期に平均して何時頃寝ていたか (1988年との比較)

	(%)	
	1988年	2002年
寝る時間	午後11時15分	午後11時55分
睡眠時間	7時間30分	6時間50分

図1-1 受験を意識して勉強に力を入れ始めたのはいつか (1988年との比較)



勉強方法「塾」「補習」「通信添削」「模擬試験」についてみていきたい。図1-2は、この1年間で利用した勉強方法について14年前と比較したものである。4つの勉強方法の中では、14年間で「塾」を利用した者の割合が圧倒的に増えている。「塾」を「利用しなかった」は、1988年調査の39.5%から2002年調査の19.7%に2割近く減った。今や塾を利用しないのは2割弱と少数派になってしまった。細かくみると、「塾」を「週に3～4日」「ほぼ毎日」利用した者、つまりかなりヘビーな利用者の割合が、その分増えていることがわかる。

これに対して「補習」は、逆に「参加しなかった」割合が14年前との比較で15%ほど増えている。また、「通信添削」はあまり大きな変化はみられない。

図1-3はその勉強方法を利用した者に、その

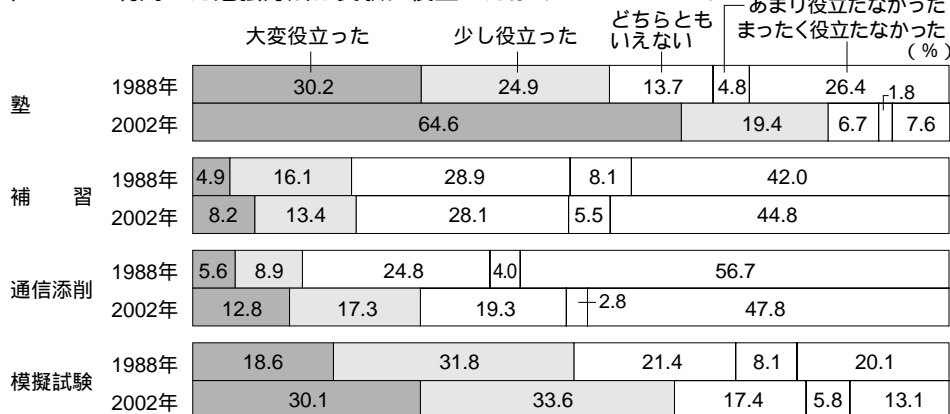
勉強方法が受験に役に立ったかを聞いた結果である。中学3年で利用する勉強方法がすべて受験のためにある必要はないわけだが、「塾」と「模擬試験」の2つは受験への役立ち感が強い。2002年調査でみると、「大変役立った」と「少し役立った」を合わせると、「塾」が84.0%、「模擬試験」が63.7%である。また、1988年調査との比較では、ここでも「塾」の役立ち感の変化が目立つ。この14年間で、「大変役立った」「少し役立った」と答えた者の割合が3割近く増加している。

このように、中学3年生において14年間で全体の学習時間が減る一方、「塾」の利用者が大幅に増えたのである。首都圏だけの傾向かもしれないが、塾の占める位置が極めて大きくなったように思われる。

図1-2 この1年間で利用した勉強方法（1988年との比較）



図1-3 利用した勉強方法は受験に役立ったか（1988年との比較）



3. 学校と塾の役割

これまで学校外の勉強方法の中で塾の占める割合が増えたことをみてきたのだが、次はその塾と学校との関係をみていきたい。

図1-4は受験勉強における学校の授業と塾についての生徒の意見の変化を比べたものである。「高校合格のための勉強は、学校の授業をきちんと受けていれば、家庭であまり勉強しなくても大丈夫だと思うか」に対しては、1988年調査でも「ぜったい大丈夫だと思う」と「だいたい大丈夫だと思う」を合わせて28.9%と、学校の授業だけで十分と考える生徒は多くはない。2002年調査では、それに加えて「ぜったい不足すると思う」の

割合が20.0%から32.4%へと12%ほど増えている。

次に「学校の授業をまじめに受け、参考書などできちんと勉強すれば、塾などへ通わなくても高校へ入れると思うか」については、1988年調査と2002年調査の間で変化したところを見ると、「だいたい入れる」が1割ほど減り、その分、「わからない」が増えている。

そして「塾へ行った方が進学に有利だと思うか」については、「ぜったい有利である」が15%、「かなり有利である」が5%ほど増えた。受験に対しては、学校の授業だけでは不足すると考える傾向が強まり、それを補う手段として、家庭で自分で学習するよりも、塾を利用することが有効だと考える生徒が増えたようである。

図1-5は、学校選択や勉強について誰に相談

図1-4 入試の勉強における、学校の授業と塾についての意見（1988年との比較）

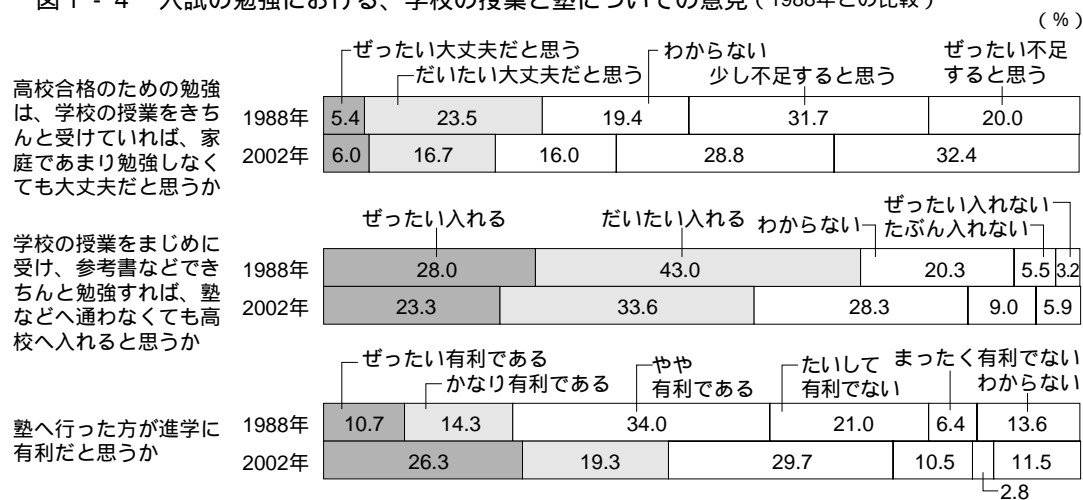
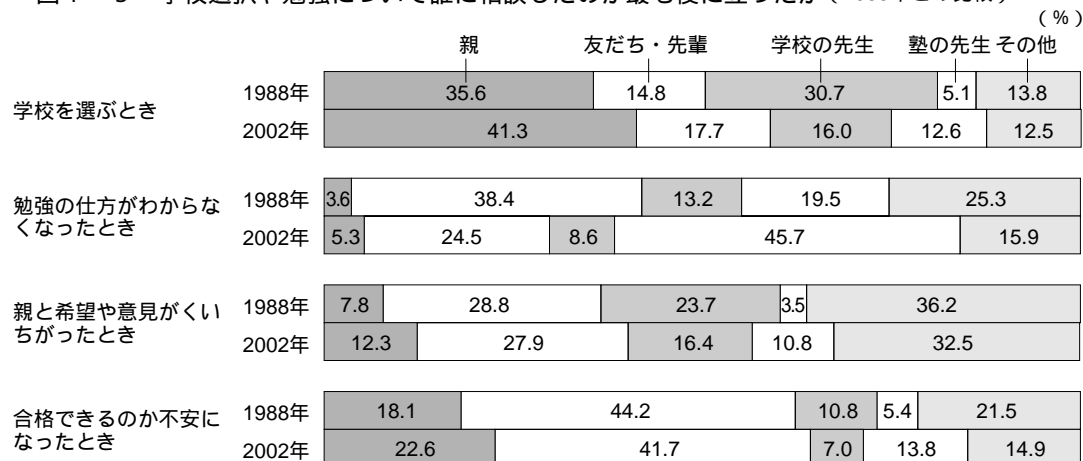


図1-5 学校選択や勉強について誰に相談したのが最も役に立ったか（1988年との比較）



したのが最も役に立ったかをみたものである。1988年調査と2002年調査を比べて、特に目立った変化をみると、「学校を選ぶとき」について「学校の先生」に相談するのが最も役に立った割合が14%ほど減少した。そして、「勉強の仕方がわからなくなったとき」について「塾の先生」が最も役に立ったが約25%増加している。結果として、勉強の仕方について1988年調査では「学校の先生」と「塾の先生」の割合にあまり差がなかったのに対して、2002年調査には「塾の先生」が45.7%と「学校の先生」の8.6%に大きな差をつけるまでになった。

実際にそうであるかは別にして生徒の意識では、受験を前にした中学3年の勉強の仕方について塾の先生が最も頼れる存在になりつつある。2節でみたように、中学3年で塾に通う者が多数派になった今、受験に合格するための力をつけることに対して、学校での不足分を塾で補うという構

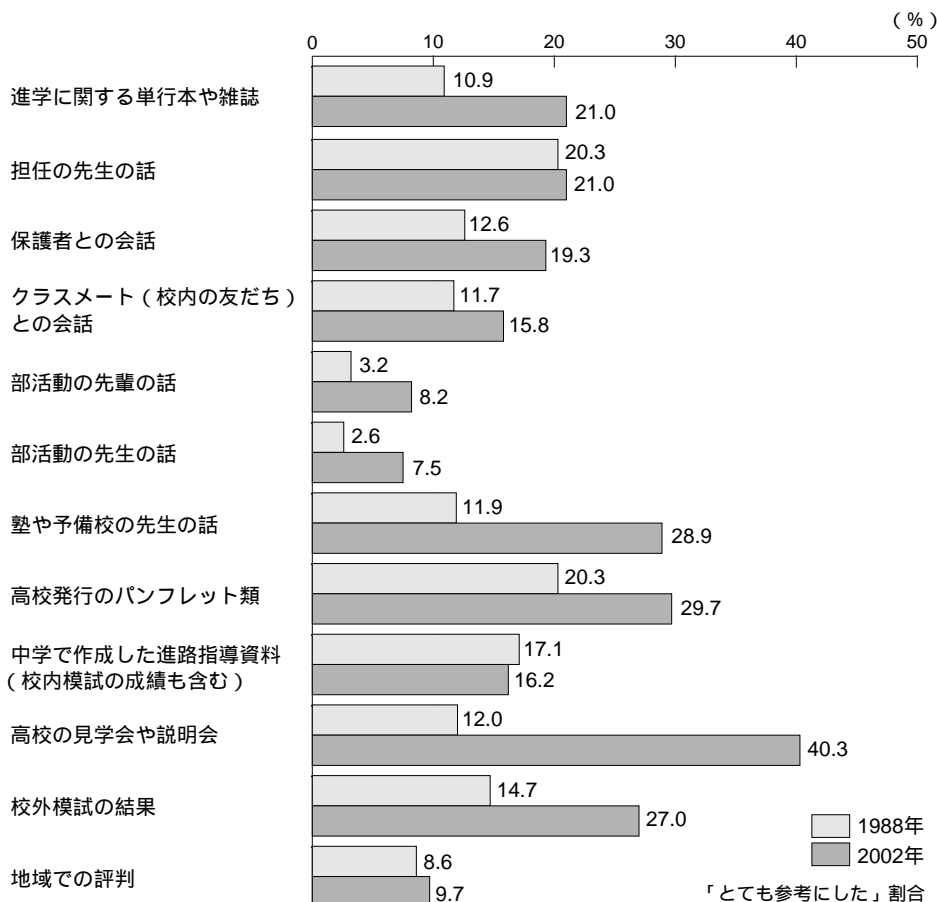
図ができつつあると思われる。この問題は他のことも含めて、最後の5節で再度言及したい。

4. 高校選択

ここでは少し視点を変えて、高校選択にあたって生徒がどういう情報を利用したか、また、どういことを気にして学校を選んだかについてみていく。

図1-6は、「進路に関する単行本や雑誌」から「地域での評判」までの12の項目について、進路を考えるにあたって「とても参考にした」と答えた割合を示している。まず全体的に、1988年調査と比べて2002年調査の方が「とても参考にした」と割合が多いことがわかる。つまり参考にする手段が多様化したことがわかる。項目別に割合の多い順にみると、上位にくる手段が14年間で変化することがわかる。1988年調査の上位3項目は「担任

図1-6 進路を考えるにあたって参考にしたこと（1988年との比較）

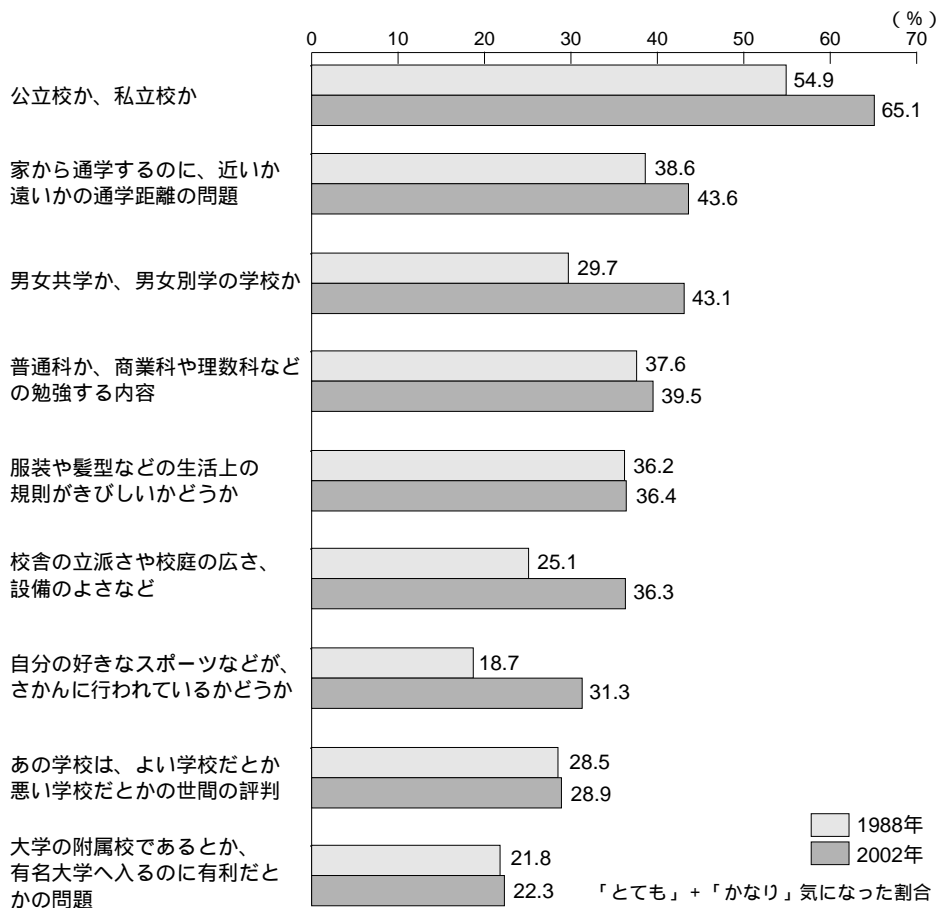


の先生の話」20.3%、「高校発行のパンフレット類」20.3%、「中学で作成した進路指導資料」17.1%であるのに対して、2002年調査は「高校の見学会や説明会」40.3%、「高校発行のパンフレット類」29.7%、「塾や予備校の先生の話」28.9%が上位になっている。最も変化の大きい「高校の見学会や説明会」に代表されるように、中学校側の生き方や在り方を中心とした進路指導の方針転換もあって、生徒本人が自分で情報を集めて、自分の目と耳で確認して判断するようになってきているのであろう。もう1つの傾向は、「とても参考にした」の割合でみると、「塾や予備校の先生の話」が増え、「担任の先生の話」と逆転したことである。前節と同様に、学校の先生の役割が相対的に低くなったことを思わせるデータが確認できる。いずれにしても、参考にする手段は多様化し、生徒本人が判断していく傾向が強まったといえよう。

図1-7は「進学する高校を決めるのにどれくらい気にしたか」をグラフにしたものである。全体的には、項目間の傾向はそんなに大きく変わったわけではないことがわかる。つまり、「公立校か、私立校か」「家から通学するのに、近いか遠いかの通学距離の問題」などが上位にあることは変わっていない。1988年調査と2002年調査で1割以上増えた項目は「公立校か、私立校か」「男女共学か、男女別学の学校か」「校舎の立派さや校庭の広さ、設備のよさなど」「自分の好きなスポーツなどが、さかに行われているかどうか」である。高校を生活する場としてみる傾向が増えたことを感じさせる結果である。

そのことは、次の図1-8の「高校生活で期待していること」にもよく表れている。11項目について、1988年調査から2002年調査で増加した割合が多い順にあげると、「学校行事（体育祭・文化祭）に積極的に参加したい」（20.1% → 48.4%）

図1-7 進学する高校を決めるのにどれくらい気にしたか（1988年との比較）



「部活動を熱心になりたい」(21.8% 40.1%)、「趣味・スポーツに専念したい」(32.6% 48.3%)、「職業に役に立つ資格・技術を身につけたい」(35.5% 50.7%)となっている。高校に期待することは多様で、特に充実した生活への期待が感じ取れる。

生徒は充実した高校生活を期待し、そうした点を選択するとき気にしながら、多様な手段で情報を集めるようになってきている。その点では生き方・在り方を中心とした進路指導方針は浸透してきているように見える。しかし、その一方で3節でみたように選択した高校に合格するための手段、つまり、その勉強方法は塾に依存する傾向が強くなった。次節ではこの点を含めて考察をしてみたい。

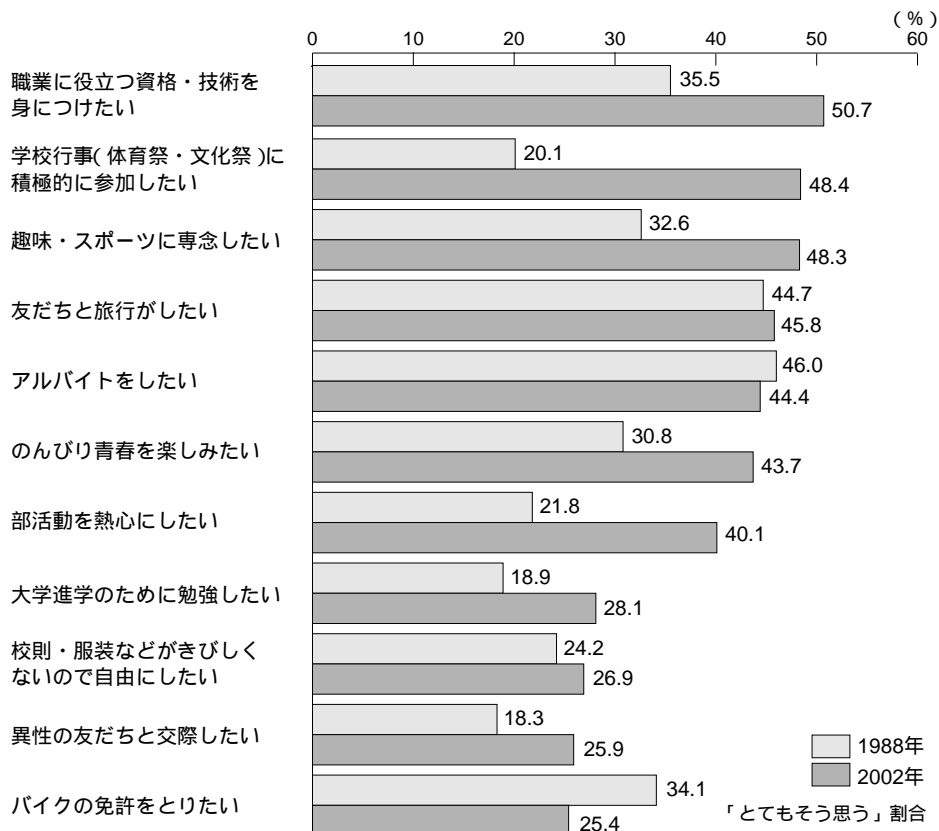
5. 14年間の変化からみえてくること

まず、これまでみてきたことを確認する。今回の調査対象となった生徒は、14年前と比べて、希望した高校に進学できており、将来の進路希望も

高めである。勉強時間は過去との比較で減少しているが、その一方で、中学3年の受験に向けた勉強に関して、学校の授業や教師の占める割合は減り、その分を塾に頼る傾向が強まっている。高校生活に対しては学校行事や部活動、スポーツや趣味、職業資格や技術の修得などへの期待が高く、多様な情報収集手段を利用して自分で探すようになってきている。

ここで考察に入る前に、高校入試に対する生徒自身の意見をみてみたい。図1-9は14年前との比較で差がみられた意見をグラフにしたものである。「自分の立てた学習目標をやりとげることができたと思う」「高校入試は、自分を鍛えるいいチャンスだったと思う」「高校入試は、生まれて初めての大きな試験だったと思う」が増えている。実際の学習時間は14年前より減少したのだが、生徒の意識では、受験のために努力をしたし、その中で達成感も得ている。本人たちの自己評価が甘くなったという解釈もあろうが、私は以下の理由から彼らの感覚はそれなりに間違っていないと思

図1-8 高校生活で期待していること(1988年との比較)



う。

第一に、高校入試は大学入試と異なり、生徒数の増減に対して募集定員の調整が行政レベルで行われている点である。例えば、東京都でいえば生徒数減により高校の統廃合が進んでおり、高校入試が楽になったとは必ずしも言えない。第二に、合格基準の多様化である。過去において学業成績という1つの軸だけで生徒を選抜することの是非が問われ、選抜方法や尺度の多様化により、確かに入試テストでの一発勝負のプレッシャーは軽減されたと思われる。しかし方法や尺度が多様になれば、それだけ合格の見通しが曖昧になり、どこまで勉強すればよいかが不明確になる。結局、可能な限りの努力をせざるを得ず、勉強の負担が軽減されるとは限らない。第三に、ここでもみたように塾の占める割合が増加した点である。14年前と比べて、勉強時間は週に換算して1時間半ほど少なくなったのだが、これとて塾の行き帰りの時間を考えると生徒の負担は減っていない。また、家庭で1人で勉強するよりも塾の方が勉強の密度

が濃い可能性も高い。

むしろ、今回のデータから考えると、以下の2つの点が重要のように思う。

- ・高校受験が緩和されたというよりも、学校の授業が高校合格のための力を身につけることに十分応えていない、ないし、そう生徒は思っていて、それを補う手段として塾が確固たる位置を占めるようになった。

- ・生徒が高校生活に求めていることと、合格の勉強方法（主として塾）を通して学んでいる内容（身につけている力）が乖離している可能性がある。

中学段階で身につけることの上に高校の学習があり、生徒はもっと専門的な勉強ができることを期待して高校に進学するのが理想だと思う。しかし、今回の調査結果からは、そのようになっていないことが推測される。生き方・在り方中心の進路指導も必要だが、その前に教科の学習を軸に進学のあり方を検討するべきではないだろうか。中学校の教科の学習の役割・内容の見直しや高校入試問題のさらなる改善が必要と思われる。

図1-9 高校入試直後の感想（自分の感想に一番近いと思うもの）（1988年との比較）

		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない (%)	
自分の立てた学習目標をやりとげることができたと思う	1988年	4.2	17.5	44.0	34.3	
	2002年	11.8	29.9	37.5	20.8	
高校入試は、自分を鍛えるいいチャンスだったと思う	1988年	14.8	35.7	34.1	15.4	
	2002年	31.2	38.3	19.1	11.5	
高校入試は、生まれて初めての大きな試験だったと思う	1988年	33.1	34.5	21.4	11.0	
	2002年	46.0	26.2	15.4	12.5	
高校入試が終わった今は、“天国”にいる気分である	1988年	26.8	27.5	30.0	15.7	
	2002年	35.2	24.7	23.8	16.3	
学習の積み重ねこそ学力を蓄えることになる。そう気づいた	1988年	37.6	42.3	13.3	6.8	
	2002年	46.0	35.5	11.7	6.8	

第2章

受験勉強を「がんばった生徒」と「がんばらなかった生徒」

井上 健

高校入試が「やさしくなった」と言われる。もちろん、生徒たちは彼らなりに「たいへんさ」を感じているのだろうが、少子化の影響で「どこかに必ず入れる高校」はあり、中学校での進路指導も「偏差値輪切り」から「自主性」や「生き方」を重んじるあり方へと大きく変化している。

では、「やさしくなった」高校入試は、生徒たちの「受験勉強のがんばり」や「高校入試に対する意識」にどんな影響を与えているのだろうか。「難関高校に進学する生徒」と「それほどでもない高校へ進学する生徒」ではどんな違いがみられるだろうか。本章では、そうした観点から、中学生にとっての高校入試の意味を探ってみたい。

1. 全体の6割以上が「希望する高校」へ

まず、今日、どのくらいの中学生が自分の「希望する高校」へ進学できるのかをみてみよう。

1988年調査でも同じ質問をしているので比較をすることができる。結果は表2-1に示したように、進学する高校が「はじめからぜひ入学したかった学校」と回答した割合は41.4%で、1988年調査の27.7%から14ポイントも増加している。これに「はじめからやや入学したかった学校」の24.5%を加えると、6割以上の生徒が「希望する高校」へ進学することがわかる。他方、「はじめはまったく入学しなかった学校」と「はじめはやや入学しなかった学校」への進学者は、1988年調査では25.4%であったが、2002年調査では15.7%にまで減少している。

表2-2は、これを成績別にみたものである。予想通り、成績上位者ほど希望校に合格しており、「上の方」と答えた生徒の54.7%が「はじめからぜひ入学したかった高校」、23.3%が「はじめからやや入学したかった高校」への進学を決めている。他方、「中の下」や「下の方」でも、3割強

表2-1 進学するのは「希望していた高校」か（1988年との比較）

	はじめからぜひ入学したかった学校	はじめからやや入学したかった学校	進学する高校どちらともいえない	はじめはやや入学しなかった学校	はじめはまったく入学しなかった学校
1988年	27.7	23.3	23.6	12.8	12.6
	51.0			25.4	
2002年	41.4	24.5	18.3	8.8	6.9
	65.9			15.7	

表2-2 進学するのは「希望していた高校」か × 成績

	はじめからぜひ入学したかった学校	はじめからやや入学したかった学校	進学する高校どちらともいえない	はじめはやや入学しなかった学校	はじめはまったく入学しなかった学校
成績	上の方	54.7	23.3	11.0	7.0
	中の上	44.9	28.1	14.2	7.8
	中くらい	41.5	24.1	18.9	8.4
	中の下	35.4	25.7	18.4	12.5
	下の方	35.0	20.3	26.3	8.6

は「はじめからぜひ入学したかった学校」に、そして、「はじめからやや入学したかった学校」を加えると5～6割が「希望する高校」への進学を果たしている。

「第1志望校」がどうかを受験方法と関連させて尋ねた表2-3からは、成績上位者は「複数の高校を受験し合格すること」で、成績下位者は「単願」によって、という「戦略」の違いはありそうだが、ともあれ、「希望する高校への進学」は今日かなりの程度、実現されているとみることができよう。

表2-3 進学するのは「第1志望校」か × 成績

		進学する高校		
		1校しか受験しなかった 当然第1志望	複数の高校を受験した中の 第1志望	第1志望ではなかった
成績	上の方	18.1	70.2	11.7
	中の上	24.6	59.1	16.2
	中くらい	35.1	51.3	13.7
	中の下	49.8	38.1	12.1
	下の方	50.8	30.9	18.3

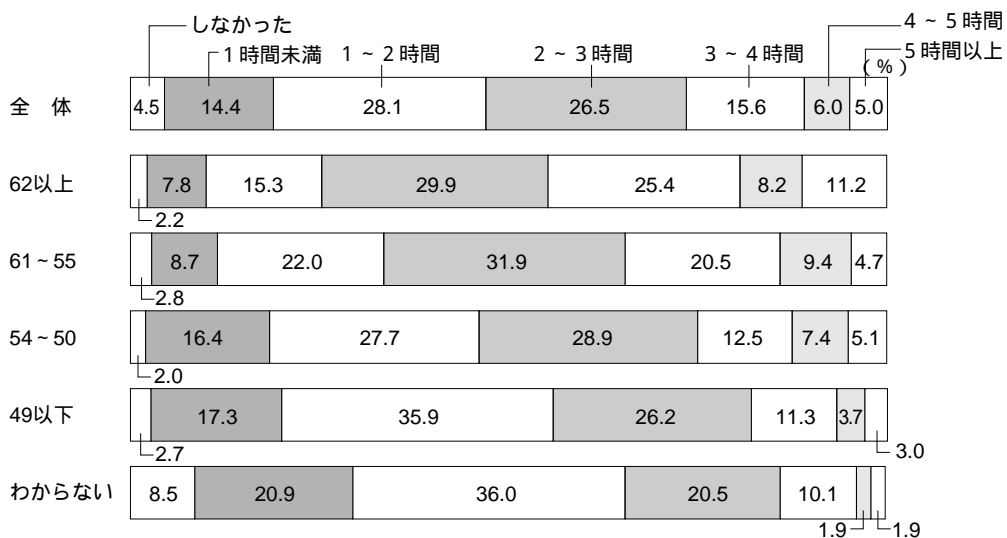
2. 「2学期の日曜日の勉強時間」 にみる大きな差

では、高校入試が「やさしくなった」ことは、生徒たちの受験勉強にどんな変化をもたらしているのだろうか。

第1章でみたように、1988年調査と2002年調査における「2学期の家庭での勉強時間」を比較すると、平日は全体で15分の減少、学校のある土曜日は25分減少している。「勉強時間」を「学習への意欲が行動としてあらわれたもの」とみなして、この10数年の間に「学習離れ」が進行したと心配する見方もあるが、興味深いことに日曜日の勉強時間については逆に15分増加している。これは何を物語るのであろうか。

そこで、勉強時間を「1時間」を単位に集計し、「進学する高校の偏差値ランク」別に比較したところ*、次のようなデータが得られた。まず、平日の勉強時間(図2-1)は、「全体」のグラフからわかるように、「1～2時間」という生徒が最も多く28.1%、次いで「2～3時間」が26.5%であった。高校ランク別に比較すると、「偏差値54～50の高校」に進学する生徒は、「全体」とよ

図2-1 平日、家に帰ってからの勉強時間 × 進学する高校の偏差値ランク



[注] * 「あなたが進学する高校は、偏差値ではだいたいどのランクにあてはまりますか」という質問に対して、「62以上(18.9%)」「61～55(18.7%)」「54～50(18.9%)」「49～45(12.6%)」「44以下(10.7%)」「わからない(20.2%)」の6つ選択肢で回答させた。()は得られた結果である。以下の分析では、各グループの比率がほぼ同じ(20%前後)になるように「49～45」「44以下」の2つを1つにまとめて「49以下(23.3%)」として比較を行う。教育現場から「偏差値が追放された」ため、生徒たちに「自分が進学する高校のランク」を尋ねても答えられないのではないかとと思われるが、「わからない」は2割に止まっている。「ものさしとしての偏差値」はまだ健在のようである。

く似た結果が示されており、いわばそれを基準として、難関高校へ進学する生徒ほど長時間勉強し、やさしい高校へ進学する生徒ほど勉強しない傾向がみられる。

「日曜日の勉強時間」(図2-2)では、その差がより顕著になる。「5時間以上」の数値に注目すると、「偏差値62以上の高校」へ進学する生徒では半数がそうであり、「61~55の高校」でも36.7%いるのに対して、「54~50の高校」は24.5%、「49以下の高校」では18.5%と減少する。自由に時間が使える日曜日に計画的に勉強しているか否かが、「進学する高校」の分岐点であるかのようだ。高校入試が「やさしくなった」ことの「負の成果」として、「難関高校を目指す生徒」と「ほどほどの高校へ進学できればよい生徒」との間で「受験勉強」の格差の拡大が危惧されるデータである。

加えて、同じランクの高校へ進学する生徒であっても、「長時間の勉強をした生徒」と「あまり

勉強しなかった生徒」がいることを確認しておきたい。例えば、「49以下の高校」に進学する生徒であっても、「5時間以上」の勉強をしている者が2割弱いる一方で、「しなかった」や「1時間未満」の生徒も合わせて2割弱である。受験のための勉強であっても、覚えたり、理解した内容や、学習の習慣それ自体が高校での勉強にプラスに働くはずである。同ランクの高校へ進学する生徒においても、学力や学習意欲の2極化が心配される。

3. 「受験勉強のがんばり度」への着目

では、受験勉強を「がんばった生徒」と「がんばらなかった生徒」にはどのような違いがあるのだろうか。この点を考えるために、ここでは、「あなたは高校受験の勉強をがんばったと思いますか」という質問への回答に着目したい。具体的には、図2-3に示したように「受験勉強に対するがんばり度」をもとに比率がほぼ等しくなるよ

図2-2 日曜日の勉強時間 × 進学する高校の偏差値ランク

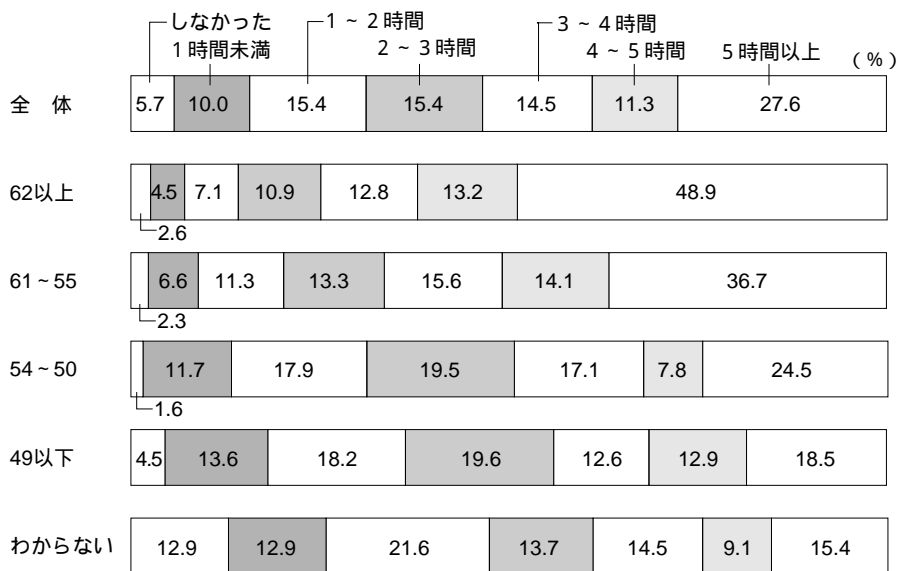
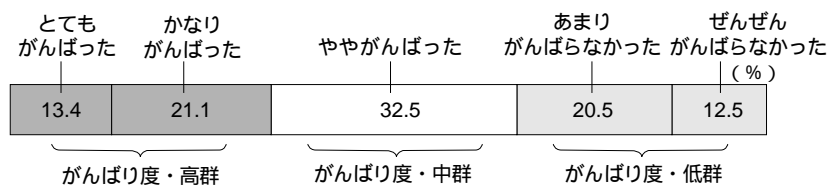


図2-3 受験勉強をがんばったか



うな3つの群に分け、それを「がんばり度・高群 (34.5%)」「がんばり度・中群 (32.5%)」「がんばり度・低群 (33.0%)」として、意識や行動にどのような違いがみられるかを比較してみよう。

念のため、図2-4で「進学する高校の偏差値ランク」ごとに比較すると、入学難度が高いほど「がんばり度・高群」の占める割合が増え、「がんばり度・低群」の生徒が減少することがわかる。入学が難しい「偏差値62以上の高校」では、半数が「がんばり度・高群」の生徒であり、まさに面目躍如といった観があるが、「がんばり度・低群」の生徒たちも2割存在する。他方、「偏差値49以下の高校」では、「がんばり度・低群」が4割と多いものの、4人に1人は「がんばり度・高群」に属する生徒である。そこで、「進学する高校の偏差値ランク」にも注意を払いながら、「受験勉強のがんばり度」の違いによって、生徒たちの高校入試に関連する意識や行動にどのような違いがあるのかをみていきたい。

さて、受験生といえば、やりたいことをがまんして夜遅くまで机に向かうイメージが浮かぶが、中学生たちはどのような生活を送ってきたのだろうか。

表2-4は、「受験勉強のために、遊びや友だちとのつきあいを減らした」ことがあるかどうかを尋ね、それを「がんばり度」別に集計し、さらに「進学する高校の偏差値ランク」で比較したものである。一番上の行を横にみると、左から右に「63.9」「54.5」「37.9」と数字が並んでいるが、これは「偏差値62以上の高校」に進学する「がんばり度・高群」の生徒では、その6割強が「受験勉強のために、遊びや友だちとのつきあいを減らした」ことが「いつも・ときどき」あったが、そうした体験は「がんばり度・中群」では5割強に、そして、「がんばり度・低群」では4割弱へと減少していくことを示している。この傾向は、他の高校ランクにおいても同様であり、「偏差値49以下の高校」へ進学する生徒でも、「がんばり度・

図2-4 受験勉強のがんばり度 × 進学する高校の偏差値ランク

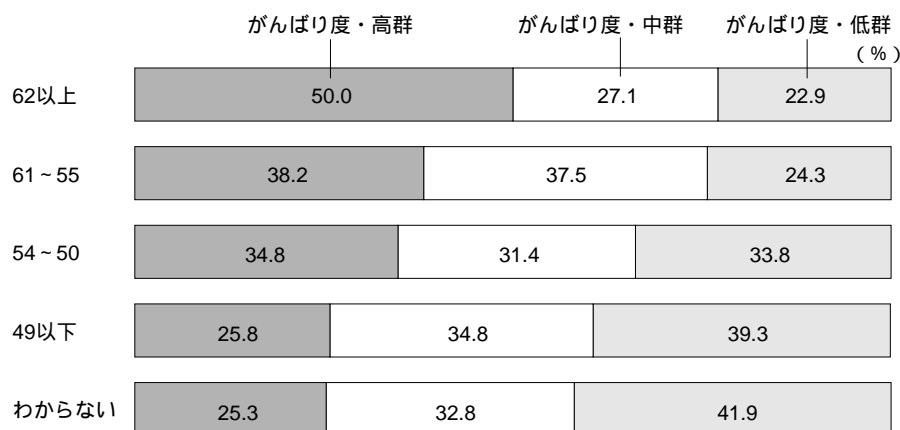


表2-4 「受験勉強のために、遊びや友だちとのつきあいを減らした」 × 受験勉強のがんばり度 × 進学する高校の偏差値ランク

		高校受験の勉強をがんばったか (%)		
		がんばり度・高群	がんばり度・中群	がんばり度・低群
偏差値 進学する 高校の ランク	62以上	63.9	54.5	37.9
	61~55	68.8	45.8	23.2
	54~50	61.0	48.4	25.5
	49以下	54.3	39.0	25.7
	わからない	52.6	26.7	13.3

「いつも」+「ときどき」 そうだった割合

高群」では半数以上が「遊びや友だちとのつきあいを減らして受験勉強をした」体験を有している。他方、そうした受験生らしい行動様式も「がんばり度・低群」では4人に1人しか体験していない。

次の表2-5は、「合格できるかどうかという不安」がどれくらいあったかを尋ね、同様の方法で1つの表にまとめたものである。表中の数字は半数以上の中学生が「不安がとても・わりとあった」と答えていることを示すが、注目すべきは、「受験勉強をがんばっている生徒」の方が「そうでない生徒」よりも、「合格への不安」を感じる割合が高いことである。すなわち、どの高校ランクにおいても、「がんばり度・低群」ではそうした不安を訴える生徒は5割台に止まっているのに、「がんばり度・高群」は7割から8割強にもなる。高校入試というものが、ほとんどの中学生にとって、自分の将来を決める第一歩であり、学力や進路と真剣に向かい合うことが大きなプレッシャーとなるのは想像に難くない。それだけに、「がんばっている生徒」がいたずらに不安を駆り立てることがないよう、彼らの話を聞いたり、将来のことを一緒に考えたりするなどして、心を軽くしてやる配慮が求められる。

4. 「受験勉強をがんばること」の意味

最後に、受験勉強を「がんばった生徒」と「そうでない生徒」とは、高校入試の体験を通じてどんな違いがみられるのかについて2点指摘して、まとめて代えたい。

その1つは、「がんばり度・高群」の生徒たちは、受験勉強でのがんばりから自信や達成感をより多く得ていることである。

今回の調査には「高校入試を振り返っての感想」を尋ねる項目があるが、例えば、「高校入試は、自分を鍛えるいいチャンスだったと思う」という項目に着目して比較を試みると、表2-6のような結果が得られた。すなわち、「がんばり度・低群」では「そう思う・まあそう思う」という回答は半数ないし6割程度であるが、「がんばり度・高群」においては8~9割という高い割合に達している。さらに、学習のより具体的な場面にかかわる「自分の立てた学習目標をやりとげることができたと思う」という項目に関して調べてみる(表2-7)と、「がんばり度・低群」においては「そう思う・まあそう思う」のはどの高校ランク

表2-5 「合格できるかどうかという不安があった」× 受験勉強のがんばり度 × 進学する高校の偏差値ランク

		高校受験の勉強をがんばったか		
		がんばり度・高群	がんばり度・中群	がんばり度・低群
偏差値 ランク の	62以上	86.1	73.7	51.5
	61~55	77.8	69.4	50.0
	54~50	71.0	65.9	57.1
	49以下	79.3	65.0	54.0
	わからない	65.4	63.0	51.2

「とても」+「わりと」あった割合

表2-6 「自分を鍛えるいいチャンスだった」× 受験勉強のがんばり度 × 進学する高校の偏差値ランク

		高校受験の勉強をがんばったか		
		がんばり度・高群	がんばり度・中群	がんばり度・低群
偏差値 ランク の	62以上	88.2	80.8	62.1
	61~55	80.9	80.6	51.4
	54~50	83.2	71.4	45.9
	49以下	83.7	71.5	48.6
	わからない	87.2	66.3	50.8

「そう思う」+「まあそう思う」の割合

でも1割台にすぎないが、「がんばり度・高群」では6~7割台にも達し、両者の間に大きな差があることが明らかになった。このことは、たとえ、「ランクの低い高校」に入学した生徒であっても、「受験をがんばった体験」を思い起こしたり、また、それを生かすように指導することで、高校入学後の学力向上やセルフ・エスティームの安定につなげる可能性を示唆すると言えないだろうか。

2つめは、「がんばらなかつた生徒」の問題である。これまでみた図表においては、「がんばり度・低群」が「がんばり度・高群」に比べて、低い数値を示すことがほとんどであった。けれども、「そんなに勉強しなくても、どこかの高校には入れる」(表2-8)や「勉強は根をつめてやらなかつたが、それでよかつた」(表2-9)などで

は、逆に、高校ランクの垣根を超えて「がんばり度・低群」の数値が「がんばり度・高群」を上回る結果が示されている。「入学できる高校があれば、がまんして無味乾燥な受験勉強をする必要はなく」、「要領よく大事なところを学習すれば、根をつめなくても大丈夫」。こうした考え方やそこから導かれる行動様式は、今日、ある意味での射たものでもあり、新しい「評価」や「推薦入試」の拡大によって、一層の広がりをみせるかもしれない。ただし、表面をとり繕ったり、困難をすり抜けていくようなことばかりでは、本当の自分を高めるための学習とは言えない。やはり、どこかで限界に挑戦し、達成感を味わうことができるような環境を与えてやりたいものである。

表2-7 「自分の立てた学習目標をやりとげた」× 受験勉強のがんばり度 × 進学する高校の偏差値ランク

		高校受験の勉強をがんばったか (%)			
		がんばり度・高群	がんばり度・中群	がんばり度・低群	
偏差値 ランク の	進学する高校の	62以上	74.6	42.3	15.2
		61~55	74.5	48.1	13.0
		54~50	64.4	39.6	12.2
		49以下	70.7	38.2	17.9
		わからない	74.4	29.7	10.2

「そう思う」+「まあそう思う」の割合

表2-8 「そんなに勉強しなくても、どこかの高校には入れる」× 受験勉強のがんばり度 × 進学する高校の偏差値ランク

		高校受験の勉強をがんばったか (%)			
		がんばり度・高群	がんばり度・中群	がんばり度・低群	
偏差値 ランク の	進学する高校の	62以上	27.7	34.6	41.5
		61~55	30.3	26.2	35.7
		54~50	17.2	20.9	46.9
		49以下	27.5	19.3	42.0
		わからない	26.7	23.8	38.8

「とても」+「わりと」そう思う割合

表2-9 「勉強は根をつめてやらなかつたが、それでよかつた」× 受験勉強のがんばり度 × 進学する高校の偏差値ランク

		高校受験の勉強をがんばったか (%)			
		がんばり度・高群	がんばり度・中群	がんばり度・低群	
偏差値 ランク の	進学する高校の	62以上	28.4	34.6	41.5
		61~55	29.1	31.5	43.5
		54~50	33.0	38.5	46.9
		49以下	31.5	43.1	50.0
		わからない	35.9	40.0	45.3

「そう思う」+「まあそう思う」の割合

第3章

各校の進路指導との関連

田中 統治

中学校での進路指導はこの14年間に大きく変わった。この変化は、「偏差値による進学先」指導から「生き方を考えさせる」指導へ、あるいは、「行ける」高校選びから「行きたい」高校選びへの転換といわれる。ここまでの分析が明らかにしたように、進路指導のこの転換は生徒や保護者の間でますます「塾に頼る」傾向を強めている。中学校が実施する進路指導は、生徒の進路志望を尊重する方向に転じた。それは中学3年生にとって「タテマエ」としては受け入れられても、「ホンネ」の部分では何らかの不安を抱かせたことだろう。推薦入試の導入や内申書の重視などに示される入試制度の多様化が、この不安をいっそうかきたてる。このため、「より確かな」進路情報を求めて学校以外の機関に頼ることは、やむをえない面もある。しかし、これからの方向を見据えるとき、中学校の進路指導が生徒や保護者から「当てにされない」状況が生じることは、やはり問題である。生徒にとって人生の最初の関門が「タテマエ」と「ホンネ」の間で揺れ動くことは望ましくないからである。では、今後の進路指導に求められる課題は何だろうか。ここでは、聴き取り調査の結果もまじえながら、その方向を探ってみたい。

1. 入試制度の多様化がもたらした影響 - 半数弱が推薦入試の合格者だった -

まず、推薦入試を受けた生徒の比率は65.5%に達し、その受験者の割合は私立で33.7%、公立で31.8%に上った。つまり、約3人に2人が推薦入試を受験したことになる。うち合格者は68.7%であるから、全体の45.0%は推薦入試の合格者である。したがって、14年前との比較を行う場合、この推薦入試による影響を考えておかなければならない。対象生徒の半数弱にとって「高校入試とは推薦入試だった」のかもしれない。もちろん、最近では、私立高校で「併願推薦」を許容する学校が増えているから、推薦合格者の中にも一般入試を受

験した生徒がいる。しかし、推薦合格の割合が高いことは、このデータ全体にわたって一定の影響を及ぼしていると考えられる。

この推薦入試に関しては性差がみられた。すなわち、その受験率が、公立の場合(男子：女子=25.4：38.7)と、私立の場合(男子：女子=36.6：30.6)とで逆転していた。この結果、合格比も、男子：女子=70.9：66.5と男子の方に若干高くなった。公立を受ける割合の高い女子にとって、推薦入試はやや狭い関門となっている。こうした性差は、公私立を併願したとき「公立に合格しても、私立に行くつもりだった」割合が、男子：女子=26.5：18.9と分かれたことにも表れた。不況によって学費の負担を考えた推薦受験がなされた結果なのだろうか。

では、受験した生徒たちは推薦入試についてどう感じたのだろうか。表3-1は、推薦受験者の感想を公私立別に示したものである。この表からわかることは、公立の推薦入試を受けた生徒の間で何らかの戸惑いがみられることである。すなわち、公立受験者の場合、「ふつうの入試の方がよい」割合や、「面接の受け方がわからなかった」割合が、7~10%近く高くなっている。逆に、「ふだんの授業でがんばってきてよかった」割合は、私立受験者の方が5%ほど高い。その理由は、私立の推薦入試への合格率が86.6%に達するのに対して、公立の場合、50.1%に止まっているからであろう。

2. 県によって違う高校入試の事情

- 推薦入試と内申書を不安に思う生徒が約半数 -

次に、都道府県によって高校入試の制度が違うことに起因する問題を検討してみよう。表3-2は、都道府県別にみた推薦入試の受験率、合格率、および面接試験への不安度を示している。まず、受験率をみれば、埼玉県の場合が8割強と最も高

く、生徒の過半数が私立高校を受験している。これに対して、神奈川県の場合は、受験率が半数強に止まっているが、しかし、公立高校の受験率は3割強に達し、4割弱の東京都の場合に次いで高くなっている。これには、都県によって私立高校の設置状況が異なることが関係しているが、同時に、推薦入試の制度も影響している。

たとえば、神奈川県の場合、数年前まで県下で実施されていたテストを廃止し、推薦入試制度が導入された。これにより、生徒は2回の受験チャ

ンスを与えられ、選択肢が広がったという。また、千葉県でも、1993年に業者テストが廃止され、また、2001年度より学区が広げられ、さらに、推薦入試枠も拡大されると共に、学校推薦から自己推薦へ転換し、生徒たちも「推薦でチャレンジ、一般入試で押さえ」という受験を考える割合が増えているという。このように、各中学校は「本来の」進路指導を展開できる条件下にあるわけであるが、生徒の間では、選択肢が広がった分だけ不安になって、塾の指導に頼る傾向も生じている。

表3 - 1 推薦入試を受けて感じたこと × 公私立

		(%)		
		そう感じる	どちらともいえない	そう感じない
「ふつうの入試の方がよい」	私立推薦受験者	10.7	41.1	48.2
	公立推薦受験者	17.7	40.5	41.8
	計	14.1	40.8	45.1
「面接の受け方がわからなかった」	私立推薦受験者	10.2	35.8	54.0
	公立推薦受験者	21.4	36.2	42.4
	計	15.7	36.0	48.3
「ふだんの授業でがんばってきてよかった」	私立推薦受験者	38.3	42.5	19.2
	公立推薦受験者	33.9	43.3	22.8
	計	36.2	42.8	21.0

表3 - 2 都道府県 × 推薦入試

					(%)		
	推薦入試の受験率				推薦入試の合格率		
	受験せず	私立を受験	公立を受験	総数(人)	合格	不合格	総数(人)
東京都	39.1	21.8	39.1	371	53.3	46.7	242
千葉県	37.5	33.4	29.0	682	69.6	30.4	438
埼玉県	17.4	53.8	28.8	351	79.6	20.4	289
神奈川県	45.7	21.1	33.2	199	70.2	29.8	114
計	34.5	33.7	31.8	1,603	68.7	31.3	1,083

面接ではどのような評価をされるのが不安

	面接ではどのような評価をされるのが不安			どちらともいえない	あまりなかった	ぜんぜんなかった
	とてもあった	わりとあった	小計			
東京都	23.3	26.1	49.4	15.2	15.0	20.4
千葉県	21.6	29.0	50.6	17.2	15.0	17.3
埼玉県	18.4	32.3	50.7	20.4	16.1	12.7
神奈川県	19.4	24.4	43.8	19.4	13.4	23.4
計	21.0	28.5	49.5	17.7	15.0	17.8

生徒たちは面接試験だけでなく、内申書へも不安をもっている。表3-3に示す通り、推薦入試の可否は、生徒の学業成績と一定の関連を示している。しかし、成績の高い生徒の場合でも志望校の水準によっては不合格となることがある。このため、「内申書は可否にどのくらいかわってくるのか不安」だったという割合は「とても」と「わりと」を合わせて48.1%に上り、これは「学校選びの不安や悩み」(47.5%)をわずかだが上回っている。ただし、「日ごろの学校生活で、内申書にひびくことを意識する」割合は「いつも」と「ときどき」を合わせても33.9%に止まり、約4人に1人は「ぜんぜんそうでなかった」と回答している。このように、推薦入試枠の拡大による高校入試の多様化は、内申書の重みを増している。これが、日ごろの学習においても「塾の勉強の方が受験に役立った」(41.8%)という評価につながるのかもしれない。こうした「塾頼み」の傾向は、やはり大都市部の学校において顕著である。

3. 生徒はどう情報を得て相談しているか
- 女子の方が積極的に情報を集めている -

中学生が進路を考えるにあたって参考にするのは、この14年間に大きく変わった(図1-6参照)。すなわち、生徒の約3~4割が「とても参考にした」ものは、順に、高校の見学会や説明会、高校発行のパンフレット類、塾や予備校の先生の話、および校外模試の結果、である。つまり、生徒が学校外部からもたらされる情報を活用する傾向が強まった。この結果、各「中学で作成した進路指導資料(校内模試の成績も含む)」(17.1% 16.2%)や、「担任の先生の話」(20.3% 21.0%)を参考にする度合いは相対的にみれば弱まった。これは、生徒が多様な進路情報を得ようとしている点で好ましいことである。

ただし、巻末に掲げた性別集計の質問項目⑥からわかるように、進路情報を活用しようという積

表3-3 推薦可否 × 成績

						(%)	(人)
	上の方	中の上	中くらい	中の下	下の方	計	実数
合格	11.9	21.9	28.7	20.4	17.1	68.5	725
不合格	11.7	30.8	32.6	11.7	13.2	31.5	334
計	11.8	24.7	29.9	17.7	15.9	100.0	1,059

表3-4 2学期の学習時間 × 性

						(%)
平日						
	しなかった~30分	1時間~1時間半	2時間~2時間半	3時間~3時間半	4時間以上	
男子	22.0	30.0	24.1	15.2	8.5	
女子	14.0	27.9	28.4	16.0	13.6	
学校のある土曜日						
	しなかった~30分	1時間~1時間半	2時間~2時間半	3時間~3時間半	4時間以上	
男子	20.5	24.1	20.3	13.2	21.8	
女子	13.7	17.4	21.3	18.3	29.3	
日曜日						
	しなかった~30分	1時間~1時間半	2時間~2時間半	3時間~3時間半	4時間以上	
男子	18.2	18.4	17.4	13.7	32.3	
女子	12.4	13.0	13.4	15.4	45.8	

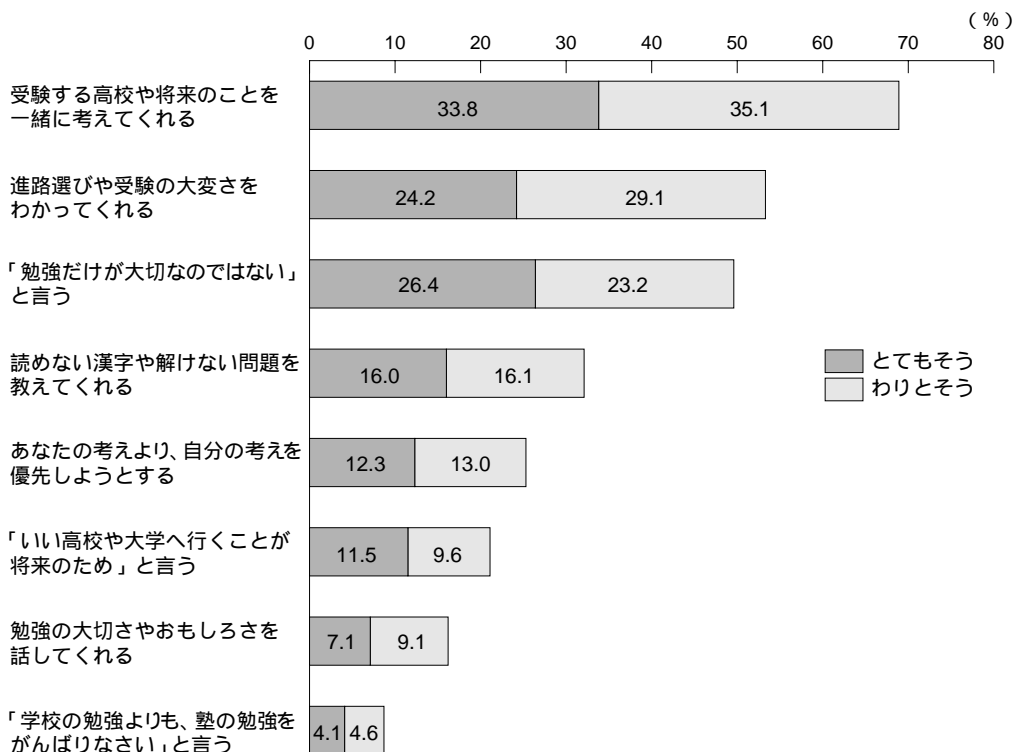
極性は女子の方に高い。男子の方が高い項目は唯一、「部活動の先生の話」のみである。なぜ、こうした性差があらわれるのだろうか。女子の方が高校進学への不安が高く、このため情報をこまめに集めて、友人とも頻繁に情報交換を行っているためであろうか。それとも、私立高校を受験する機会が少ないことが理由の1つなのだろうか。その原因はよくわからない面がある。しかし、高校進学にあたって女子の方がよく勉強していることは確かである。表3 - 4に示す通り、平日・学校のある土曜日・日曜日の学習時間をみれば、その時間数は女子の方で長い。また、「受験勉強をがんばった」度合いも強く、さらにまた「中学3年間の過ごし方のタイプ」においても努力型が多い。つまり、今の高校進学は、どちらかといえば、女子の方が努力して通過する関門になっている。

ところで、高校を選ぶにあたって、外部からの進路情報をうまく活用しない生徒は一定、不利になることが考えられる。高校入試の多様化は、中

学校からもたらされる情報を手がかりに、さらに広範囲の情報源を得ることが必要になっている。このため、保護者がどれだけ子どもの相談によってアドバイスをすることができるか、これが進路選択の鍵となるだろう。そこでまず、14年前と比較するため、図1 - 5および図1 - 6から、保護者と相談する頻度を調べた。すると、「学校を選ぶとき」を筆頭に、親に相談する頻度が、以前より高くなっていることがわかる。高校の進学先は最終的に2学期の終わりの三者面談で決まる。このため、進路指導の成果は、親・子・教師の間で円滑なコミュニケーションがとれるかどうかにかかってくる。その際、親子間で頻繁に相談がされていない場合、「生徒主体の進路選択」も空洞化してしまう。

では、親子の間で一体、何が話し合われているのだろうか。図3 - 1によって、親子間のコミュニケーションの内容をみてみよう。肯定率の高い順にみれば、中学3年生の親子が、「進路のこと

図3 - 1 親子のコミュニケーションの内容



を一緒に考え、その大変さをわかりあい、勉強だけが大切なのではないことを話し合っている」傾向が読み取れる。しかし、意外なことに、「『いい高校や大学へ行くことが将来のため』と言う」（「とても・わりとそう」21.1%）や、「勉強の大切さやおもしろさを話してくれる」（16.2%）の割合が2割前後に止まっている点は注目される。また、勉強の内容に関する相談も3割しか行っていない。つまり、高校進学に関する親子のコミュニケーションは「共感と慰め」の方向にその重心を移しており、問題とされた「過度の進学期待や知育偏重」は次第に過去のものになりつつある。

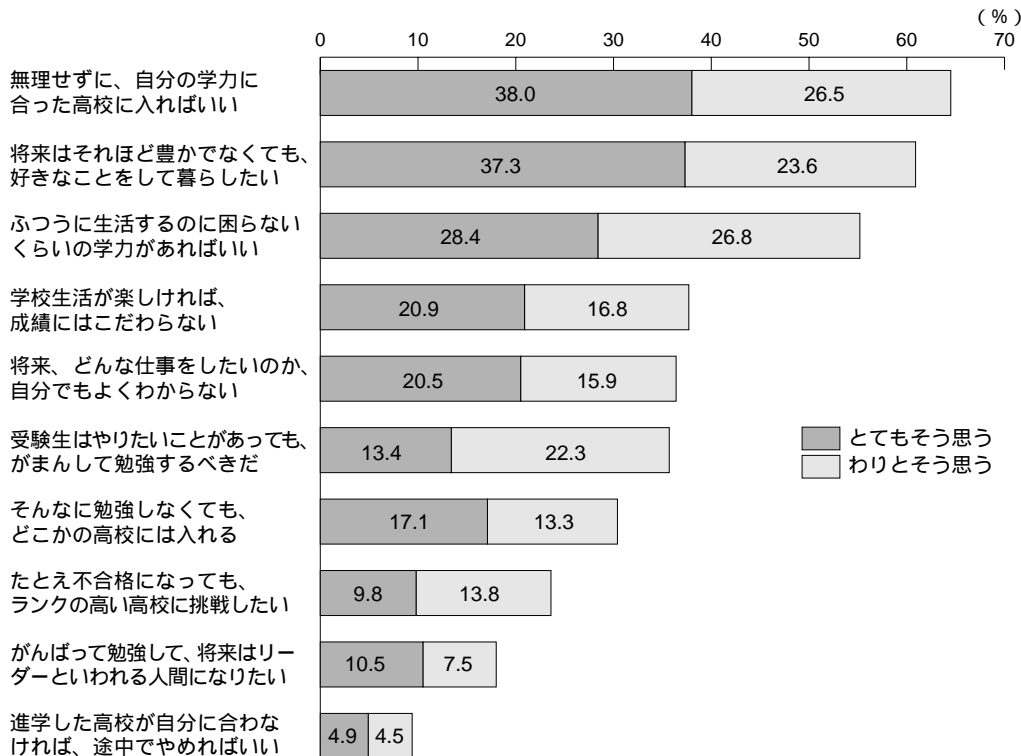
4. 生徒の意識変化と進路指導の課題
- 絶対評価による内申点への影響 -

2002年度の1学期末には各中学校で通知票のつけ方をめぐって多くの混乱が生じた。相対評価から絶対評価への移行が、中学3年生の内申点に直

接、影響するからである。調査対象となった1都3県は、来春入試から絶対評価を採用する見込みであるという。全国的にみれば、相対評価を維持する県や、両方を併記して独自に対応する県もある。いずれにしても、絶対評価への切り替えによって、評定の基準が細かく設定されることは確かである。これが中学校の進路指導にどんな影響を及ぼすことになるだろうか。

生徒にとっては学習内容の理解度だけでなく、意欲や表現力などを多面的に評価される機会が増えることになるだろう。このとき、生徒の学力や学習意欲の「2極化」に示される意識変化に注意しなければならない。図3-2は、高校進学に向けた生徒の意識傾向を尋ねた結果である。14年前との比較データはないけれども、全体に生徒の進学志望(アスピレーション)が変化していることがうかがえる。すなわち、約6割の肯定率となった項目からみれば、「無理せずに、自分の学力に合った高校に入ればいい」(64.5%)、「将来はそれほど豊かでなくても、好きなことをして暮らしたい」

図3-2 高校進学への意識傾向



ど豊かでなくても、好きなことをして暮らしたい」(60.9%)、および「ふつうに生活するのに困らないくらいの学力があればいい」(55.2%)という意識は、高校進学への野心や挑戦などの動機面が変質していることを示している。しかも、この傾向が男子の一部で顕著になっていることが注目される。絶対評価への転換がこれらの「努力しない」生徒たちを学習に向けて動機づけることができるだろうか。

中学校の進路指導は、生徒の志望を尊重する方向に転じて、従来とは別の意味で、「努力しない」生徒の発生という問題に直面している。この状況を絶対評価の導入によって改善するためには、いくつかの条件を考える必要がある。その第一は、ふだんの授業をできるだけ充実させて、生徒の学習意欲を高めることである。生徒の多くは学業成績の結果のみにこだわる傾向がある。これに対して、絶対評価は授業のプロセスを重視し、それが生徒の学習行動をどう変えたかに注目する。この点では、生徒の学習観を変える可能性をもつだろう。これからの進路指導では、生徒が「生きる意味」を「学ぶ意味」につなげられる活動が必要であるが、それはまず授業の質的な改善にかかっている。

第二は、推薦入試における内申書の扱いである。東京都の私立高校は推薦入試にあたって統一テストを行う予定であるという。内申点の客観性をめぐってはこれまでも議論があった。入学者選抜にあたって絶対評価は適さないという意見もある。しかし、相対評価との併用は「二重基準」状態をつくり出し、保護者や生徒の間に混乱を招くことは避けられない。推薦入試にあたって、生徒の多くが内申書に強い不安を抱くことがないように、何らかの工夫が求められる。

第三は、進路指導の効果を見極めながら、その改善を図っていくことである。「生き方在り方」の指導を重視する方向は、一体、生徒や保護者のニーズにどれだけ応えているだろうか。各中学校

への聴き取りの結果によれば、「生徒主体の進路選択」が次第に実現しつつあるという。しかし、都市部を中心に「塾頼み」の傾向は、以前よりも一層、強まっている。これからは、塾に通わない生徒たちが進路選択において不利にならないような手立てを講じることが必要になってくるだろう。中学校の進路指導は、今後、理想と現実をバランスよく見据える方向が求められるのではなかろうか。

以上、ここでは、進路指導と関連した分析を行った。最後に、この調査の当初に設定した仮説を確かめる形で、明らかになった点をまとめておきたい。

高校進学をめぐる不安やストレスは、少子化の影響で全体に軽減化の方向に向かっているのではないかという仮説に関しては、軽減化の傾向はみられず、推薦入試の拡大と内申書の重視によって、約半数が不安をもつ傾向がみられる。

有名校をめざす生徒たちと、ほどほどの学校をめざす生徒たちの間で、学習時間などの面で2極化が生じていないかという仮説に関しては、日曜日の学習時間や、受験勉強への取り組み方を中心にその傾向がみられる。

従来のように学力レベルのより高い高校をめざすように動機づける進学期待は弱まっているのではないかという仮説に関しては、必ずしもそうではなく、高校入試をくぐり抜けた達成感は高くなっている。しかし、親子間の相談内容や進学志望の動機面からみれば、進学アスピレーションが低下している傾向はうかがえる。

中学校の進路指導は、生徒の志望を尊重する方向に転じて、従来とは別の意味で、「努力しない」生徒の発生など困難な問題をかかえているのではないかという仮説に関しては、男子の一部がこうした傾向を示しているが、しかし、学校としてその指導に困難をきたしているほど深刻ではないことがわかった。

第4章

高校からみた進路指導

三枝 恵子

1. 進路情報と高校選択

ここでは、中学校の進路指導に影響を与える高校の対応を中心にみていきたい。現在、高校では、公開授業・学級懇談会・保護者面談・PTA支部別懇談会・部活動の父母会・地域教育活動への参加などを保護者や地域に公開することに積極的である。こうした高校の姿を紹介し、生徒の個性化・多様化に対応し意義ある充実した高校3年間を過ごしてほしいと願いつつ、中学校や中学生とその保護者へ向けて情報を積極的に発信している。

まず、中学生が高校の情報を得る方法の主なものをあげてみよう。

1. 高校説明会
2. 中学校訪問
3. 文化祭等の学校行事への招待、部活動での合同練習
4. インターネットによる高校のホームページの作成
5. 中学生による高校見学

上記の1～4は、高校側が積極的に実施している。簡単に説明しておこう。高校説明会とは、中学生を高校に招き、年2回程度の説明会を実施する。1回目は夏休み中で、午前、午後または2日間程度で、2回目は進路決定直前の秋の土・日曜日を利用して実施される。主に高校で学習する授業内容や高校卒業後の進路とその対策、部活動や学校行事を含めた高校生活全般等の説明を行っており、部活動の見学や体験参加ができる。近年は、中学生だけでなく、その保護者も対象に説明会を開催している高校が増えている。中学校訪問とは、高校から中学校の主に3年生担当の先生を訪問し、学校案内等の資料の配布と高校の『建学の精神』やカリキュラムの説明、卒業の進路状況、高

校生活の様子、出身中学から入学した生徒の高校での活躍や生活の様子、そして入試情報Q & A等を説明する。教師2人一組で数校担当し、夏休み直前と10月頃の2回行う場合が多い。それとは別に、高校の校長・教頭先生が中学校の校長・教頭先生を訪問することも頻りに実施されている。こうした取り組みは私立高校では以前から行われていた。当時、公立高校の学校案内は手作りの印刷物程度という学校も多かったが、今では、カラー印刷でカリキュラムや進学情報はもちろん、部活動、各種学校行事の生徒の活躍する場面の写真を豊富に掲載し、在校生のコメントなども入れ、中学生に親しみやすくわかりやすい、視覚的にアピールするようなものに工夫している。中学校の先生からは、最近では公立高校の方が熱心に中学校訪問をし、学校案内も豪華になってきたと評されるほどである。

このような現状をふまえて、高校から発信する情報を中学生がどのように受け止めているのか、データからみていこう。表4-1「進路決定のための情報源」によれば、「高校の見学会や説明会」(「とても+かなり参考にした」(69.8%)、「高校発行のパンフレット類」(67.0%)、「担任の先生の話」(64.3%)が6割を超え、「保護者との会話」(59.4%)、「塾や予備校の先生の話」(59.1%)がほぼ6割で、これらが進路決定の情報源として上位にくる項目である。その中で、「高校の見学会や説明会」と「高校発行のパンフレット類」は7割近くの中学生在が参考にしており、進路を決めるときに大いに役立っていることがわかる。

少子化により、生徒募集に力を入れているのはどの高校でも同じである。パンフレット類は中学生にとって、卒業後の進路や希望する将来像の実現に高校がどう応えられるのかわかりやすく解説している。学校説明会では部活動の体験入部もできるし、個々に見学に来る中学生には、高校生たちが校内を案内し、授業の様子や高校生活を説明することも多く行われており、こうした高校側

から発信する情報が進路決定で効果的に利用されていることがわかる。

次に、表4-2により「進学する高校を決定するとき」に、中学生が重視する内容をみてみよう。「とても+かなり気になった」数値でみると、「公立校か、私立校か」が65.1%と最も高く、次いで「家からの通学距離」「男女共学か別学か」が4割

を超える。昨今の経済不況により教育費が家計を圧迫しており、進路決定にも教育費が判断材料となっている。公立高校のメリットとして、その授業料の安さをアピールしているようだ。「男女共学か別学か」も進路決定の大きな要因としてあげられている。男女共同参画社会を目指す中で公立高校の男女別学が問われており、2003年度からの

表4-1 進路決定のための情報源

	とても参考にした	かなり参考にした	小計
高校の見学会や説明会	40.3	29.5	69.8
高校発行のパンフレット類	29.7	37.3	67.0
担任の先生の話	21.0	43.3	64.3
保護者との会話	19.3	40.1	59.4
塾や予備校の先生の話	28.9	30.2	59.1
校外模試の結果	27.0	29.5	56.5
クラスメート（校内の友だち）との会話	15.8	40.3	56.1
進学に関する単行本や雑誌	21.0	32.7	53.7
中学で作成した進路指導資料 （校内模試の成績も含む）	16.2	33.2	49.4
地域での評判	9.7	22.8	32.5
部活動の先輩の話	8.2	14.0	22.2
部活動の先生の話	7.5	14.2	21.7

表4-2 進学する高校を決定するとき

	とても気になった	かなり気になった	小計
公立校か、私立校か	47.5	17.6	65.1
家から通学するのに、近いか 遠いかの通学距離の問題	22.7	20.9	43.6
男女共学か、男女別学の学校か	26.9	16.2	43.1
普通科か、商業科や理数科などの 勉強する内容	21.5	18.0	39.5
服装や髪型などの生活上の規則が きびしいかどうか	19.7	16.7	36.4
校舎の立派さや校庭の広さ、設備の よさなど	16.3	20.0	36.3
自分の好きなスポーツなどが、 さかんに行われているかどうか	19.3	12.0	31.3
あの学校は、よい学校だとか 悪い学校だとかの世間の評判	14.4	14.5	28.9
大学の附属校であるとか、有名大学へ 入るのに有利だとかの問題	12.4	9.9	22.3
職場体験などの体験学習を取り入れた 授業がある	5.4	6.0	11.4
他校との単位が互換ができる	3.8	4.3	8.1

新学習指導要領の実施を契機に、別学から共学への転換を試みる高校も多い。中学生たちが共学か別学かを進路決定の上位にあげている理由は、必ずしもすべてが共学化する必要はなく、別学も特色ある高校の1つとして存在する意義があるからではないだろうか。

「普通科か、商業科や理数科などの勉強する内容」も「とても気になった」21.5%、「かなり」を合わせると39.5%と高い。高校生になぜ商業科や工業科を希望したかと尋ねると、『就職に有利だから』『簿記の資格を取りたいから』『機械に関心があるから』『ロボットを作りたいから』など将来像をイメージした答えが返ってくる。しかし、英語科や理数科を希望した生徒には、『数学や理科が得意だから』『英語が得意だから』『英語の成績がよければ大学受験に有利だから』『大学進学率が高いから』、中には『専門学科が不合格でも併設している普通科に合格できるから』など高校入試や大学受験に有利なことをあげる生徒も多い。しかし、専門学科は、やはり専門教科に重点をおいたカリキュラムであり専門科目を学ぶ時間が多い。安易な専門学科への入学は、高校卒業後の将来の進路実現にむけて苦勞する場合が多いので要注意であろう。中学生には高校で学ぶ科目を理解するのはなかなか難しいのかもしれないが、

入学してから後悔しないためにも、各高校の特色をよく理解し、目的をしっかりと持った高校選びを期待したい。

「他校との単位互換制度」や「体験学習」などは、今回の調査ではまだまだ注目度は低いが、高校間だけでなく大学や博物館等での学習が高校での単位として認定されることも可能で、単位制の導入なども実施されており、今後ますます注目される内容になると予測できる。

2. 高校評価と期待する高校生活

それでは、中学生が考えるよい高校とはどんな高校なのだろうか。理想の高校像を探ってみよう。表4-3によれば、「校舎や運動場などの施設や設備が整っている高校」が最も高く、「とてもそう思う」28.7%、「少しそう思う」の37.5%を合わせると66.2%、「地域の人たちから評判のよい高校」51.7%と5割を超える。次いで、「規則を守り、生活のきちんとしている生徒の多い高校」も48.0%と5割近くになる。「勉強に熱心な人が多く、たくさんの人が大学に進学している高校」「その学校の卒業生の多くがよい仕事についている高校」も約4割と、街でみかけるカラフルな髪の高中生、制服をだらしく着る高校生、超ミニ

表4-3 中学生の高校評価（よい高校とはどんな学校か）

	(%)		
	とてもそう思う	少しそう思う	小計
校舎や運動場などの施設や設備が整っている高校	28.7	37.5	66.2
地域の人たちから評判のよい高校	21.3	30.4	51.7
規則を守り、生活のきちんとしている生徒の多い高校	22.1	25.9	48.0
勉強に熱心な人が多く、たくさんの人が大学に進学している高校	17.0	22.4	39.4
その学校の卒業生の多くがよい仕事についている高校	14.9	24.2	39.1
大学にそのまま入れるような高校	11.0	16.9	27.9
スポーツや芸能などで、世間的に名が売れている高校	11.3	13.3	24.6
入学時の偏差値が高く、入るのが難しい高校	7.2	10.9	18.1
宗教的な信念によって教育しているとか、建学の精神がしっかりしているような高校	4.7	5.4	10.1

スカートの女子高校生、化粧品にピアスやリングの高校生などは、中学生からは支持されていないようで、むしろ地域からも評判のよい、勉強熱心な大学進学率の高いよい仕事につけるような高校を望んでいることがわかる。

中学生たちは望みの高校を、校外模試の結果と高校のパンフレット類、担任の先生、保護者との会話、塾の先生などの情報をもとに決定しようとしている。高校としては、今後も中学生により理解しやすいパンフレットの作成や高校説明会に1人でも多くの中学生に参加してもらえよう一層の改善が必要である。さらに、小・中学生に対して高校生の活気あふれる充実した生活を示すことも重要である。そのために魅力的な高校づくりと、地域へ開かれた学校である必要を感じる。

それでは、中学生は、どんな高校生活を期待しているのだろうか、表4-4でみてみよう。数値は「とてもそう思う」割合を示している。「将来もつきあえるような友だちを見つけない」68.3%と、高校でよい友だちに出会うことを最も強く期待している。次いで、「職業に役立つ資格・技術を身につけたい」「学校行事(体育祭・文化祭)に積極的に参加したい」「趣味・スポーツに専念したい」「友だちと旅行がしたい」「アルバイトをしたい」「のんびり青春を楽しみたい」「部活動を

熱心にしたい」が4~5割となる。「大学進学のために勉強したい」は28.1%にすぎず、よい友だち関係を深め、部活動や学校行事に積極的に参加し、趣味やアルバイトをするなど、学業より人間形成に重点を置いた高校生活を期待していることがわかる。

性別では、男子は「趣味・スポーツに専念したい」「部活動を熱心にしたい」「異性の友だちと交際したい」「バイクの免許をとりたい」、女子では「将来もつきあえるような友だちを見つけない」「学校行事(体育祭・文化祭)に積極的に参加したい」「のんびり青春を楽しみたい」「ボランティア活動もしてみたい」と、高校生活に期待する内容に性差がみられる。

一方、高校は、充実した高校生活の延長線上に将来の進路が実現できればよいと考える。そのために、高校生が様々な体験をし人間的に大きく成長できるように、特色のある高校づくりを目指している。学校週5日制による土曜日のサポート、選択科目を多く設定し柔軟に個人の興味関心に対応するカリキュラム、中学校の進路指導で抱いた将来の自己実現のために、そして人間としての成長のために、部活動や体育祭、文化祭、球技大会、駅伝大会、水泳大会等の学校行事にも貴重な汗を流してほしいものである。

表4-4 期待する高校生活

	(%)		
	全体	男子	女子
将来もつきあえるような友だちを見つけない	68.3	63.6	< 73.4
職業に役立つ資格・技術を身につけたい	50.7	48.5	53.0
学校行事(体育祭・文化祭)に積極的に参加したい	48.4	40.7	< 56.6
趣味・スポーツに専念したい	48.3	52.0	> 44.4
友だちと旅行がしたい	45.8	43.2	48.5
アルバイトをしたい	44.4	41.8	47.3
のんびり青春を楽しみたい	43.7	39.1	< 48.5
部活動を熱心にしたい	40.1	45.0	> 34.9
大学進学のために勉強したい	28.1	30.0	25.9
校則・服装などがきびしくないので自由にしたい	26.9	25.2	28.7
異性の友だちと交際したい	25.9	29.8	> 21.7
バイクの免許をとりたい	25.4	32.4	> 17.9
ボランティア活動もしてみたい	16.0	12.4	< 19.8

「とてもそう思う」割合
> < は注目される項目

3. 高校入試へのとまどい

今回のデータの中から、高校入試に関する気になるデータをあげてみよう。表4-5、「受験勉強で利用した勉強方法」をみると、「塾」で勉強した割合が「ほぼ毎日」11.1%、「週に3～4日」が40.8%と、週の半分以上を塾に行っている生徒が51.9%となる。「利用しなかった」のは19.7%と2割にすぎない。1988年調査では「ほぼ毎日」が5.9%、「週に3～4日」が24.8%で合わせると30.7%と、2002年の方が「塾」の利用が21.2ポイントも上昇している。

「模擬試験」では、「0回」すなわち利用しない生徒は19.1%と、1988年調査との差がほとんどみられない。一方、「模擬試験」を利用している生徒では、「3～4回」の利用が27.3%と最大値を示している。1988年調査では「1～2回」が28.5%と最大値を示しており、「模擬試験」の利用率が高まっている。逆に、「校内の補習」では「参加しなかった」割合が79.8%と1988年調査と

比べ14.4ポイント上昇している。また、1988年調査では16.7%も利用していた「夏期補習」は、4.4%に減少している。

それでは、「塾」や「模擬試験」は、高校受験に役立ったのだろうか。表4-6によれば、「塾」を「大変役立った」と答えた割合は64.6%で、1988年調査と比較すると34.4ポイントと2倍以上の差がみられる。そして、1988年調査では「まったく役立たなかった」と答えた生徒は26.4%だったが、2002年調査では7.6%と3分の1以下に減少している。「模擬試験」を「大変役立った」は30.1%で、1988年調査と比較するとやはり10ポイント以上差がある。一方、「まったく役立たなかった」は13.1%と1988年調査の20.1%と比べ減少しており、塾や模擬試験への信頼が高まっていることがうかがえる。

次に、表4-7で高校受験への不安の中から、「合格できるかどうかという不安」についてみよう。「とてもあった」が42.3%と、1988年調査の35.7%と比べ若干上昇している。こうした不安をどのように解消しようとしているのか。表4-8により、高校受験の悩みの相談相手のデータから確かめてみよう。「合格できるのか不安に

表4-5 受験勉強で利用した勉強方法（1988年との比較）

							(%)
塾							
	ほぼ毎日	週に3～4日	週に1～2日	冬期講習	夏期講習	利用しなかった	
1988年	5.9	24.8	22.4	3.1	4.3	39.5	
2002年	11.1	40.8	24.3	2.2	1.8	19.7	
補習（校内の）							
	ほぼ毎日	週に3～4日	週に1～2日	冬休み	夏休み	参加しなかった	
1988年	6.9	2.5	6.5	2.0	16.7	65.4	
2002年	7.1	2.5	4.1	2.2	4.4	79.8	
模擬試験							
	0回	1～2回	3～4回	5～6回	7回以上		
1988年	20.0	28.5	20.1	11.5	19.9		
2002年	19.1	20.5	27.3	16.2	16.8		

表4-6 受験勉強は役に立ったか（1988年との比較）

						(%)
		大変役立った	少し役立った	どちらともいえない	あまり役立たなかった	まったく役立たなかった
塾	1988年	30.2	24.9	13.7	4.8	26.4
	2002年	64.6	19.4	6.7	1.8	7.6
模擬試験	1988年	18.6	31.8	21.4	8.1	20.1
	2002年	30.1	33.6	17.4	5.8	13.1

は10ポイント以上差のある項目

なったとき」に「友だち」40.4%、「親」22.6%、「塾の先生」13.8%。「塾の先生」は「学校を選ぶとき」12.6%、「勉強の仕方がわからなくなったとき」45.7%と、「塾の先生」を重視する割合が高く、1988年調査に比べると2倍以上に上昇している。逆に、「学校の先生」は「学校を選ぶとき」が16.0%と、1988年調査と比較すると14.7ポイント減少し、「勉強の仕方がわからなくなったとき」8.6%、「合格できるのか不安になったとき」7.0%と、やはり14年前に比べ減少傾向がみられる。

高校入試制度は1988年と比べ、学力検査の点数の評価に『面接』が導入され、合否の判定基準が多様化した。さらに、公立高校に『推薦入試』制度が導入され『一般受験』や『私立高校受験』などを合わせると、受験のチャンスは複数となり、加えて、15歳人口の減少により、高校を限定しなければ、それほど受験勉強を意識せずに中学生を送っても十分合格でき、高校受験に向けた中学生の負担は軽減されたかに感じられる。しかし、過去と比較して論じるのは高校や中学教師たちで、はじめて『受験』に臨む中学生とその親たちにとってはやはり不安であり、とくに望みの高校に入ろうとする生徒にとって『高校受験』の中学

生活に占める比重は今も昔も変わらず重いだろう。

今回のデータで最も注目される点は、高校受験に役立っているのは塾や模擬試験が中心で、中学教師や校内の補習が「役立っていない」とみなされたことである。昨今の報道では予備校で高校教師を研修させ、中学校へ塾から講師を派遣し、「予備校や塾の教え方を学ぼう」というプログラムの実施により、塾や予備校が脚光を浴びている。これは、今の高校や中学校の授業法が、大学入試や高校入試に役立たないということなのだろうか。今回のデータは、まさに中学校では進路指導はできても、受験対策はできていないことを如実に示した結果といえるだろう。

この背景を少し考えてみたい。この10年間で、高校受験の考え方や制度が大きく変化したのは、1992年埼玉県教育長が県内の中学校に業者テストの結果の偏差値を提示しないように求めたことからである。いわゆる業者テストの廃止である。それから1993年1月、文部省（当時）から全国に『業者テスト、中学校から排除、偏差値関与を一切禁止』と通達された。業者テストから算出された偏差値が子どもの進路・評価のすべてを決める

表4 - 7 高校受験の不安（1988年との比較）

		(%)				
		とてもあった	わりとあった	どちらともいえない	あまりなかった	ぜんぜんなかった
学校選びの不安や悩み	1988年	13.6	37.0	15.0	25.2	9.2
	2002年	16.6	30.9	15.9	23.4	13.2
合格できるかどうかという不安	1988年	35.7	29.4	12.7	13.6	8.6
	2002年	42.3	23.5	13.0	11.8	9.4
親との意見のくいちがいの悩み	1988年	7.7	15.4	13.2	29.5	34.2
	2002年	8.0	15.1	12.0	27.0	37.9

は注目される項目

表4 - 8 高校受験の悩みの相談相手（1988年との比較）

		(%)					
		親	友だち	学校の先生	先輩	塾の先生	その他
学校を選ぶとき	1988年	35.6	12.9	30.7	1.9	5.1	13.8
	2002年	41.3	15.3	16.0	2.4	12.6	12.5
合格できるのか不安になったとき	1988年	18.1	43.0	10.8	1.2	5.4	21.5
	2002年	22.6	40.4	7.0	1.3	13.8	14.9
勉強の仕方がわからなくなったとき	1988年	3.6	36.7	13.2	1.7	19.5	25.3
	2002年	5.3	23.5	8.6	1.0	45.7	15.9

は増減が顕著な項目

ことが、子どもの学校生活や家庭生活、人間関係を荒廃させており、1人の人間としての進路を実現するための新しい評価を求めて、偏差値教育から脱却を求めたはずであった。その後、『推薦入試』も導入され、合否の判定には子どもたちの多様な能力を総合的に評価するよう評価基準が検討され、制度も含めて教育改革が進んだ。高校も偏差値による輪切りのなランクが緩和され、多様な観点を新しいものさしで判定された生徒たちを迎えるようになった。

こうした変革は、いわゆる偏差値が高いと評価された高校から国体やインターハイなどに多くの生徒が出場するようになり、甲子園に出場する公立高校も増え、成果をもたらしている。そして、1節でも述べたように高校側も積極的に中学生に進路指導のための資料や情報を発信し、高校の特色を理解し、目的を持って充実した高校生活を送ることができるように配慮してきた。そうした対応は中学生に受け入れられ、一定の成果を上げている。

しかし、進路を考えることと希望の高校に入学させる受験指導は別なのであろう。かつて偏差値という数値で合否が判断できたときは、中学校の教師たちも業者テストの数値でかなりの確かな合否の予測が可能であった。子どもたちは「先生に相談すれば」と考え、「業者テストの成績を私立に示せば入学の内定をもらえる」など教師も生徒も高校も、偏差値に頼っていた。しかし、子どもたちの多様な観点を総合的に評価するとなると話は別である。A高校で何をどう評価するのか、B高校では、学業成績の点数をどのように評価しているのか、C高校では、部活動の成績にどのくらいの重さを持たせてくれるのだろうかと思案し、中学校ではどのような学力を身につければ中学生の望み通りの高校に進学できるのか、非常にわかりにくくなっているのが現状である。受験する中学生にとっても同様であろう。

たとえば、推薦入試を希望した中学生が、ある高校の資料により推薦入学で何を重視するか調べて本校志望の意志が強く、進学に対する目的意識を持ち、さらに次のいずれかを満たしていること。

向学心が旺盛で、その成果が期待できること。
部活動を中心とするスポーツ活動、文化活動、生徒会活動、ボランティア活動において優れた実績と資質を持ち、入学後もその成果が期待できること。

左記のように記載された内容に対して、中学生はどのような受験準備を考え、努力していくのだろうか。

このことについて中学生にヒアリングした結果をまとめると、

- ・国語・数学・社会・理科・英語の成績がよいこと
- ・体育や音楽・技術家庭科の授業も気を抜かないこと
- ・部活動でレギュラーで活躍すること
- ・部活動で大きな大会（県大会みたいな）で優勝すること
- ・部活動の顧問に頼んで希望の高校に推薦してもらおう
- ・行きたい高校と練習試合をたくさんして、高校の顧問に注目されること
- ・有名な美術展や書道展で入選すること
- ・担任の先生に好かれること
- ・担任の先生に逆らったり反発しないこと
- ・生徒会長になること
- ・学級委員や委員長になること
- ・警察から表彰されること
- ・人の命を助けて新聞などで有名になること
- ・面接の練習をすること
- ・誰にでも好かれるようにすること
- ・自分が正しいと思っても強く主張しすぎないこと
- ・1冊は本を読んでおく（面接のために）等

次から次へと答えが返ってくる。そして、これを実現するために誰に助言を受けるのが一番いいかと尋ねると、塾の先生をトップにあげ、次いで部活動の顧問の先生、悲しいことに担任の先生をあげた生徒はいなかった。

一般受験でも同様である。進学情報誌はもちろん、入塾の説明会では、高校に合格するために、たとえば、学区を指定している県では学区と学区外の募集定員の割合を示す。さらに、学力検査と調査書の成績の割合、調査書の成績の算出方法（塾独自の推測だろうが）、観点別評価の仕方、面接の評価、部活動での活躍の評価、生徒会委員会の役員の評価等、高校教師も驚くほど詳しく説明するという。さらにまた、日頃の中学校生活の過ごし方まで細かく指導し、必要であれば、理科の実験から受験教科にはない技術家庭科など

の実習教科まで体験的に指導してくれるという。このような現状では、中学生の受験指導は塾が一手に抱え込んでいるとの思いを強くし、今回の調査データとも一致するところである。加えて、新学習指導要領の実施に伴って学習内容の3割削減や学校週5日制実施に伴う授業時間の削減が学力低下の不安を生み、塾や予備校への期待はますます加熱されるだろう。

高校入試から偏差値を排除した趣旨はこうした現状をもたらすためだったのだろうか。偏差値の排除、推薦入試の導入、可否の総合的な判断基準は、中学校の先生に可否の判定を非常にわかりにくくしている。中学校から送られる調査書(いわゆる内申書)を、どのように評価するかは各高校に任されており、内容が抽象的であればなお一層評価基準は複雑になりわかりにくい。このため、情報をより多く広範囲にわたって蓄積している塾にはかなわないのである。

そして、大手予備校や塾で発行している進学情報誌には、塾の偏差値による高校ランクの一覧表が示され、模擬試験の結果で合格の確率を判定してくれる。確かに偏差値は中学校や中学教師から

は排除されたが、中学生から排除されたわけではなく依然として大きな比重を占めている。今年からは中学校の評価が絶対評価となったことも高校入試を混乱させるだろう。現状では福岡県は絶対評価と相対評価を併記し、熊本県は評定の各レベルの割合を決め、11府県は従来通りの相対評価を、31都道府県は絶対評価をとるといふ。文部科学省はこのような各県の対応を想定した範囲内とコメントしているが、中学生や親たちには不安があるだろう。また、中学校教師にとっても、各高校で可否の選定に絶対評価をどのようにするか、中学校の成績の比重を軽視し、学力検査の点数を重視するのではないかと等、絶対評価の導入はますます可否判定の見通しを複雑化させるだろう。

入試のものさしを多様化し、偏差値による輪切りの高校間格差を改め、興味関心や個性を伸ばした子どもの育成をすることを目的とし、業者テストの廃止や推薦入試等の入試形態の多様化を図ったはずであった。中学生が塾で勉強し模擬試験を受け、塾の情報に可否の予測を頼る現状は、教育改革の流れの中での「過渡的」現象であることを願いたい。

終章

高校入試にプレッシャーがなくなったのか

深谷昌志

1. 現在でも高校入試は不安

序章でふれたように、今回の調査は主として、高校入試へのプレッシャーが消えたのかを確かめるために実施された。3年生を受け持っている担任などの話を聞くと、中3の2学期後半になっても、のんびりとしている生徒が多く、受験に特有な張りつめた雰囲気がみられないという。そうした声が多いだけでなく、客観的にも高校入試は緩和され、特定校にこだわらなければ行く先に困らない状況が生まれている。

そして、今回は受験を終えた中3の3月に調査票を配って、高校入試についての気持ちを聞いてみた。同時に、1988年調査と同じような調査を実施しているの、新しい調査票の中に1988年調査と同じ項目を含め、比較を可能にするデザインを組んだ。なお、サンプル選定にあたって、1988年調査と同じ中学校に依頼することにした。そうした形で、可能な限り、同質のサンプルを選んで、高校受験について、1988年と2002年との比較を試みることにした。

端的に言って、調査結果は予想とは、異なるものであった。調査結果によれば、現在の生徒たち

図1 高校入試への不安(1988年との比較)

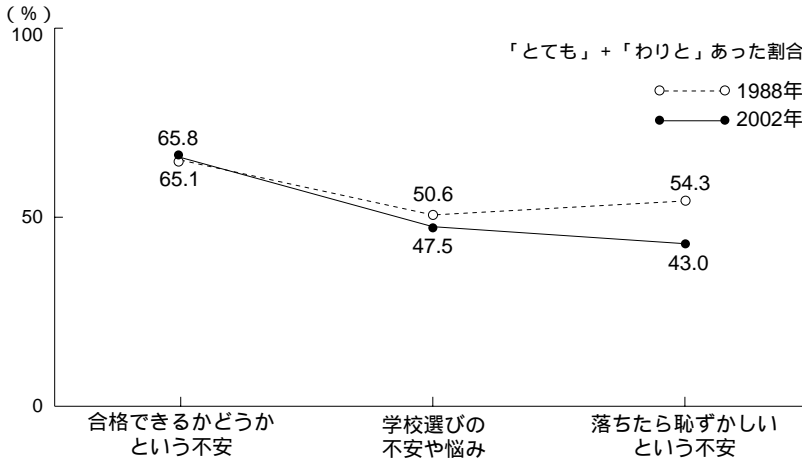


表1 高校入試への不安(1988年との比較)

		(%)					
		とてもあった	わりとあった	小計	どちらともいえない	あまりなかった	ぜんぜんなかった
合格できるかどうかという不安	1988年	35.7	29.4	65.1	12.7	13.6	8.6
	2002年	42.3	23.5	65.8	13.0	11.8	9.4
学校選びの不安や悩み	1988年	13.6	37.0	50.6	15.0	25.2	9.2
	2002年	16.6	30.9	47.5	15.9	23.4	13.2
落ちたら恥ずかしいという不安	1988年	27.0	27.3	54.3	15.8	14.9	15.0
	2002年	21.2	21.8	43.0	17.8	17.3	22.0

も高校入試にかなり強いプレッシャーを感じているのがわかる。

図1(表1)に目を通してほしい。これは、高校入試への不安を尋ねた項目だが、2002年調査の数値が示すように、「合格できるかどうかという不安」を感じる生徒は、「とてもあった」だけでも42.3%に達するが、これに、「わりとあった」の23.5%を加えると、65.8%と、全体の3分の2を占める。そして、こうした不安の割合は、1988年調査の65.1%とほとんど変わっていない。

このように現在の生徒にとっても、高校入試はプレッシャーがかかるようで、入試に失敗したらどうしようと思っている生徒が少なくない。

入試についての不安は、図2(表2)にも詳しい。入試を考えると、「勉強が手につかない」が57.2%（「いつも」+「ときどき」そうだった割合）、「志望校に合格できるか不安」も55.4%、「なんだかイライラする」が50.7%である。

昔の高校入試を知る者からすると、現在の入試

はやさしいと思う。しかし、現在の生徒にとって過去はわからないから、現在がすべてになる。そうなると、やさしいといっても、はじめての受験なので、あれこれと不安に思うのであろう。

図2(表2)の結果でも、「勉強が手につかない」「志望校に合格できるか不安」「なんだかイライラする」状況を感じている生徒が5割を超える。しかも、受験勉強がきびしかった1988年頃と、不安な気持ちに変わりはない。

2. 現在の高校入試を特徴づけるもの

現在の生徒も、高校受験に不安な気持ちを抱き、行く先がないのではと思っていることは昔の生徒と変わりはない。

そういっても、現在の入試が昔と同じわけはない。1988年調査と対比させて、現在の入試の特徴を拾い出すと、以降の通りとなる。

図2 高校入試前の不安な気持ち(1988年との比較)

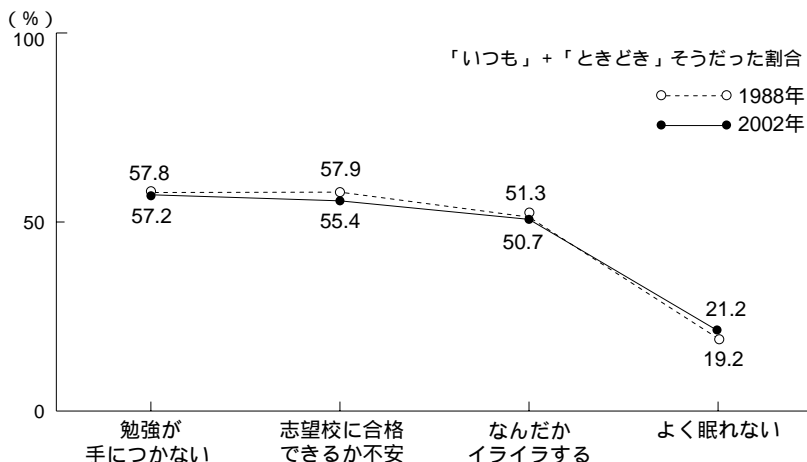


表2 高校入試前の不安な気持ち(1988年との比較)

		いつもそうだった		ときどきそうだった		小計		(%)		
		1988年	2002年	1988年	2002年	1988年	2002年	どちらともいえない	あまりそうでなかった	ぜんぜんそうでなかった
勉強が手につかない	1988年	19.8	38.0	57.8	16.2	15.9	10.1	13.3	20.5	14.9
	2002年	24.2	33.0	57.2	17.4	12.9	12.6			
志望校に合格できるか不安	1988年	26.1	31.8	57.9	18.0	12.6	11.5	16.5	12.2	15.9
	2002年	27.8	27.6	55.4	16.5	12.2	15.9			
なんだかイライラする	1988年	9.3	42.0	51.3	13.3	20.5	14.9	13.0	16.1	20.2
	2002年	15.4	35.3	50.7	13.0	16.1	20.2			
よく眠れない	1988年	5.0	14.2	19.2	14.8	26.2	39.8	14.6	21.1	43.2
	2002年	6.5	14.7	21.2	14.6	21.1	43.2			

推薦入試の増加

推薦入試を受けた生徒は65.5%（私立33.7%、公立31.8%）で、68.7%が合格したので、推薦による合格者は45.0%と、半数に達する。

勉強時間が短い

中3の2学期の頃、平日の学習時間は1988年調査の2時間12分から2002年調査の1時間57分に15分ほど短縮されている。学校のある土曜日も2時間58分から2時間33分へ25分短縮されている（表1-4）。

塾通いの増加

週に3日以上、塾通いをする生徒は、1988年調査の30.7%から2002年調査の51.9%へ21.2ポイント増加している（表4-5）。通塾率の増加だけでなく、塾での勉強が「大変役立った」と思う割合は1988年調査の30.2%から64.6%へと倍増している（表4-6）。

進学にあたっての学校離れ

「学校の授業と参考書などで勉強すれば、高校に入れる」と思う生徒は1988年調査の71.0%から2002年調査の56.9%へ減少する反面、「塾へ行った方が進学に有利」は25.0%から45.6%へ増加している（図1-4）。

志望通りの進学

「ぜひ入学したかった学校」に入学できたが41.4%で、これに「やや入学したかった学校」の24.5%を含めると、65.9%が志望通りの進学を果たしている。ちなみに、1988年調査は51.0%（「ぜひ」は27.7%）である（表1-2）。

高校生活への期待が高い

高校へ入ったら、「学校行事に積極的に参加したい」（1988年調査の20.1%から48.4%へ）、「部活動を熱心になりたい」（21.8%から40.1%へ）、「大学進学のために勉強したい」（18.9%から28.1%へ）など、高校に進学してからの自分に期待を抱いている生徒が多い（図1-8）。

4年制大学志向の高まり

難関大学への進学希望が20.4%、これに普通の4年制大学進学の35.1%を含めると、4年制大学志望は55.5%と、半数を超える。これは、1988年調査の44.5%（難関大学は14.7%）より11.0%進学志望が高まっている（表1-3）。

3. 結果が示唆するもの

今回の結果を要約するなら、高校進学が多様化であろう。かつてのような業者テストもないし、そうなると、偏差値の持つ比重も少なくなる。推

薦制度が多様化するだけでなく、選抜試験も内申や活動歴などを含めた多様化が進んでいる。高校サイドの説明会もふまえて、それぞれが自分のペースで進学をしている印象を受ける。

自分の希望する高校に入れたと思っている生徒が3分の2に達し、高校に入れたら部活動や学校行事をがんばりたいと考えている。希望に燃えて進学している感じである。もちろん、4年制大学進学希望者が半数を超えるから、高校進学は最終のゴールでなく、通過点なので、あと3年間充実した生活を送りたいと思っているのであろう。

臆を決しての受験という感じが薄れ、マイペースの穏やかな受験風景である。生涯学習の時代を迎え、学びの時間は長い。そうだとすれば、先が長いから、こうした穏やかな受験でよいのではと思った。特に、高校教育に希望を抱いている点に好感を持った。

そうした中で、中学生が学校離れをして学習塾へ依存する傾向を強めているのが気になる。もちろん、業者テストが廃止され、成績についての客観的なデータを持っていないので、進学相談にのりにくいかもしれないが、生徒たちが進学に不安を抱いているのはすでに述べた通りなのだから、生徒から信頼されるように学校として手を打つべきであろう。

生徒から学校が信頼されるためには、とりあえず、以下のような方策を勧めたいと思った。

より広範な進学情報の収集

選抜試験が多様化しているだけでなく、高校内部の改革も進んでいる。それだけに、高校についての情報を積極的に集め、受験に対応する必要がある。これまでをやっていると思うが、少なくとも情報面で学習塾にひけをとらない程度の充実が必要であろう。

個別の指導の徹底化

今回の結果でも、進学が多様化していた。そうした状況に生徒が振り回されている印象を受ける。生徒が自分の進路について確信を持てるように、一人一人の進路相談を徹底してほしい。

親との連携を密接に

進学状況の変動は、教育関係者でもわからないくらいだから、親は当惑していよう。親に最新の情報を伝え、親とともに生徒の進路を考える体制を整備するべきであろう。

この3点は目新しくない。しかし、こうした方策を徹底して、生徒や親からの信頼をかちとることが重要であろう。

アンケートのお願い

これはテストではありません。全国の中学生にお願いして、中学生の生活の様子をうかがうアンケートです。思ったことをそのままお答えください。

回答のしかた

あなたはスポーツが好きですか。

とても 好き	かなり 好き	ふつう	少し 嫌い	とても 嫌い
1	②	3	4	5

あなたが、もしスポーツを**かなり好き**だと思ったら、上のように番号のところを○でかこんでください。

1 まず、あなたの学校、学年、性別についてお聞きします。

- 1) 学校名…… () 中学校
- 2) クラス…… 3年 () 組
- 3) 性別…… (1. 男子 2. 女子)

2 あなたの進路についてお聞きします。あなたの進路は次のどれですか。

1. 進学(定時制・専門学校をふくむ)
2. 就職
3. 未定

【2、3、と答えた人をお願いします。】

これからの質問には、仮にあなたの進路や進学先が決まったらどんな気持ちになるかを考えて答えてください。どうしても答えにくい質問には答えなくて、その次の質問に進んでください。

3 あなたは高校入試について、次のような不安や悩みがどれくらいありましたか。

- | | とても
あった | わりと
あった | どちらとも
いえない | あまり
なかった | ぜんぜん
なかった |
|--|------------|------------|---------------|-------------|--------------|
| 1. 学校選びの不安や悩み…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 親との意見のくいちがいの悩み…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 合格できるかどうかという不安…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 落ちたら恥ずかしいという不安…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 面接でどのような評価をされるのか不安 …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 内申書(調査書)は合否にどのくらい
かかわってくるのか不安…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

4 あなたは次のような場合、だれに相談したり、話をしたのが最も役立ちましたか。

- | | 親 | 友だち | 学校の先生 | 先輩 | 他の先生 | その他 |
|-----------------------|---|-----|-------|----|------|-----|
| 1. 学校を選ぶとき…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 2. 勉強のしかたがわからなくなったとき… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 3. 親の希望や意見がくいちがったとき… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 4. 合格できるのか不安になったとき… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |

5 あなたは入試をひかえて、次のように思ったり、行動したことがどれくらいありましたか。

- | | いつも
そうだった | ときどき
そうだった | どちらとも
いえない | あまりそう
でなかった | ぜんぜんそう
でなかった |
|--------------------|--------------|---------------|---------------|----------------|-----------------|
| 1. なんだかイライラする…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 勉強が手につかない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

- | | いつも
そうだった | ときどき
そうだった | どちらとも
いえない | あまりそう
でなかった | ぜんぜんそう
でなかった |
|---|--------------|---------------|---------------|----------------|-----------------|
| 3. よく眠れない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 家族に口ごたえしたりしてあたる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 学校で友だちにあたりちらす…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 自分の受験する学校名を友だちに
知られたくない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. 今のまま入試をむかえて、志望校に
合格できるか不安…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. 学校を休んでも、受験の勉強を
した方がよい…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. 日ごろの学校生活で、内申書に
ひびくことを意識する…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. 高校受験には、学校の勉強より塾の
勉強の方が役に立った…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11. 受験勉強のために、遊びや友だちとの
つきあいを減らした…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

- 6 進路を考えるにあたって、あなたがどんなものを参考にしたかについてお聞きします。
あなたは進学にあたり、志望校を決めるのに、次の1～12のようなことをそれぞれどれ
くらい参考にしましたか。

- | | とても
参考にした | かなり
参考にした | あまり参考
しなかった | まったく参考
しなかった |
|--|--------------|--------------|----------------|-----------------|
| 1. 進学に関する単行本や雑誌…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 担任の先生の話…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 保護者との会話…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. クラスメート（校内の友だち）との会話…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 部活動の先輩の話…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 部活動の先生の話…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 塾や予備校の先生の話…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 高校発行のパンフレット類…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 中学で作成した進路指導資料
（校内模試の成績もふくむ）…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 校外模試の結果…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 地域での評判…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12. 高校の見学会や説明会…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |

- 7 進学する高校を決めるときに、次のようなことがどれくらい気になりましたか。

- | | とても
気になった | かなり
気になった | 少し
気になった | あまり気に
ならなかった | ぜんぜん気に
ならなかった |
|--|--------------|--------------|-------------|-----------------|------------------|
| 1. あの学校は、よい学校だとか悪い
学校だとかの世間の評判…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 家から通学するのに、近いか遠いか
の通学距離の問題…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 自分の好きなスポーツなどが、さかん
に行われているかどうか…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 校舎の立派さや校庭の広さ、設備の
よさなど…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 大学の附属校であるとか、有名大学へ
入るのに有利とかの問題…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 普通科か、商業科や理数科などの
勉強する内容…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. 男女共学か、男女別学の学校か…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. 公立校か、私立校か…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. 服装や髪型などの生活上の規則が
きびしいかどうか…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. 他校との単位が互換できる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11. 職場体験などの体験学習を取り入れた
授業がある…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

- 8 あなたが利用した勉強方法についてお聞きします。

- 1) あなたは、この1年間に次のようなものを利用しましたか。

- | | | | | | | |
|--------------------|------|------------|------------|-------------|------|-------------|
| 1. 塾…………… | ほぼ毎日 | 週に
3～4日 | 週に
1～2日 | 冬期講習 | 夏期講習 | 利用
しなかった |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |
| 2. 補習（校内の）…………… | ほぼ毎日 | 週に
3～4日 | 週に
1～2日 | 冬休み | 夏休み | 参加
しなかった |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |
| 3. 通信添削（てんさく）…………… | ほぼ毎日 | 週に
3～4日 | 週に
1～2日 | 利用
しなかった | | |
| （「進研ゼミ」のような通信教育） | 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| 4. 模擬試験…………… | 0回 | 1～2回 | 3～4回 | 5～6回 | 7回以上 | |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | | |

2) それらは、あなたの受験勉強に役立ちましたか。利用しなかったものは答えなくてよいです。

	大変 役立った	少し 役立った	どちらとも いえない	あまり役立 たなかった	まったく役立 たなかった
1. 塾……………	1	2	3	4	5
2. 補習 (校内の) ……	1	2	3	4	5
3. 通信添削 (てんさく) …… (「進研ゼミ」のような通信教育)	1	2	3	4	5
4. 模擬試験……………	1	2	3	4	5

9) あなたは、実際にいつ頃から受験を意識して、勉強に力を入れはじめましたか。

中学に 入って すぐ	2年生の 頃から	3年生に なって すぐ	3年の 夏休みに 入って	3年の 2学期に なって	3年の 2学期後半 になって	3年の 3学期に なって	入試 直前に なって	とくに 意識 しなかった
1	2	3	4	5	6	7	8	9

10) 入試が終わったいま、ふりかえてみて、いつ頃から受験勉強を始めたらよかったですか。

中学に 入って すぐ	2年生の 頃から	3年生に なって すぐ	3年の 夏休みに 入って	3年の 2学期に なって	3年の 2学期後半 になって	3年の 3学期に なって	入試 直前で よい	受験を意味 しての勉強は 不必要
1	2	3	4	5	6	7	8	9

11) 入試の勉強についてお聞きします。

1) 高校合格のための勉強は、学校の授業をきちんと受けていれば、家であまり勉強しなくても大丈夫だと思いますか。

ぜったい 大丈夫 だと思う	だいたい 大丈夫 だと思う	わからない	少し不足 すると思う	ぜったい不足 すると思う
1	2	3	4	5

2) それでは、学校の授業をまじめに受け、参考書などできちんと勉強すれば、塾などへ通わなくても高校へ入れると思いますか。

ぜったい 入れる	だいたい 入れる	わからない	たぶん 入れない	ぜったい 入れない
1	2	3	4	5

3) 塾へ行った方が進学に有利だと思いますか。

ぜったい 有利である	かなり 有利である	やや 有利である	たいてい 有利でない	まったく 有利でない	わからない
1	2	3	4	5	6

4) あなたは、塾か予備校へ通っていましたか。

- 通っていなかった
- 通っていた → 週 () 日

5) 塾(予備校をふくむ)に通っていた人だけにお聞きします。(通っていなかった人は、次の12)に進んでください)

あなたが通っていたのは次のうち、どんな塾ですか。

- 学校の授業の補習をする塾
- 受験のために勉強する塾
- 難関高校への進学をめざす塾

12) 2学期の頃、あなたは家へ帰ってから、平均して、どれくらい勉強していましたか。平日、学校のある土曜日、日曜日に分けて教えてください。

- 平日…………… () 時間 () 分くらい
- 学校のある土曜日… () 時間 () 分くらい
- 日曜日…………… () 時間 () 分くらい

13) あなたは、2学期に平均して、何時頃寝ていましたか。

- 寝る時間……………午前/午後 () 時頃
- 睡眠時間……………平均して () 時間 () 分くらい

14) あなたは、高校受験の勉強をがんばったと思いますか。

とても がんばった	かなり がんばった	やや がんばった	あまり がんばらなかった	ぜんぜん がんばらなかった
1	2	3	4	5

15 高校へ進学するとき、入学試験があるのはよいことだと思いますか。

よいこと まあよいこと どちらとも あまりよいこと 悪いこと
 だと思ふ だと思ふ いえない だと思わない だと思ふ
 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

16 高校入試では、試験教科は何教科がよいと思いますか。

1. 全教科
2. 5教科(国、社、数、理、英)
3. 3教科(国、数、英)
4. 得意教科を数科目選択

17 昨年の高校入試直後、生徒のみなさんに感想を求めました。感想には、次の1～11のようなものがありました。あなたが読んで、1～11のそれぞれの意見について、自分の感想にいちばん近いと思うところに○をつけてください。

1. 自分の立てた学習目標をやりとげることができたと思ふ…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4
2. 高校入試は、自分を鍛えるいいチャンスだったと思ふ…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4
3. 高校入試は、生まれて初めての大きな試験だったと思ふ…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4
4. もっと早く自分に合った勉強法を見つけて、地道にやっておけばよかったと思ふ…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4
5. 3年生になったからといって、勉強は根(こん)をつめてやらなかったが、それでよかったと思ふ…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4
6. 勉強は短い時間、心を集中してやるのが大切だと思ふ…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4
7. 高校入試が終わった今は、“天国”にいる気分である…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4
8. 高校入試は、体験してみたらどうということはない。ただの期末テストという感じだった…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4
9. すべての入試が終わった今、入試はあつけないもの。そんな気がする…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4
10. 学習の積み重ねこそ学力を蓄えることになる。そう気づいた…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4
11. 入試、入試と神経質になることもなかった。ときには思ぬきも大切だったと思ふ…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4

18 中学校生活3年間をふりかえってみると、あなたの勉強のしかたは、次のどのタイプだと思いますか。いちばん近いものに○を1つつけてください。

1. コツコツ積み重ねていくタイプ
2. 始めれば休むことなく続けるタイプ
3. 勉強中にも、ときどき他のことが頭に浮かんでくるタイプ
4. 気が向くとやり、向かないとやらないタイプ

19 次のことは、あなたの保護者の方に、どれくらいあてはまりますか。

- | | | | | | |
|--|-----------|-----------|----------|--------------|---------------|
| | とても
そう | わりと
そう | 少し
そう | あまり
そうでない | ぜんぜん
そうでない |
|--|-----------|-----------|----------|--------------|---------------|
1. 受験する高校や将来のことを一緒に考えてくれる…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 2. あなたの考えより、自分の考えを優先しようとする…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 3. 進路選びや受験の大変さをわかってくれる…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 4. 読めない漢字や解けない問題を教えてくれる…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 5. 勉強の大切さやおもしろさを話してくれる…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 6. 「学校の勉強よりも、塾の勉強をがんばりなさい」と言う…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 7. 「いい高校や大学へ行くことが将来のため」と言う…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 8. 「勉強だけが大切なのではない」と言う…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

20 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。

- | | | | | | |
|--|-------------|-------------|------------|---------------|----------------|
| | とても
そう思う | わりと
そう思う | 少し
そう思う | あまり
そう思わない | ぜんぜん
そう思わない |
|--|-------------|-------------|------------|---------------|----------------|
1. 受験生はやりたいことがあっても、がまんして勉強するべきだ…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 2. たとえ不合格になっても、ランクの高い高校に挑戦したい…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 3. 学校生活が楽しければ、成績にはこだわらない…………… 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

- 20
- | | | | | | |
|--|-------------|-------------|------------|---------------|----------------|
| | とても
そう思う | わりと
そう思う | 少し
そう思う | あまり
そう思わない | ぜんぜん
そう思わない |
|--|-------------|-------------|------------|---------------|----------------|
- ふつうに生活するのに困らないくらい
の学力があればいい…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 - 無理せずに、自分の学力に合った高校
に入ればいい…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 - そんなに勉強しなくても、どこかの
高校には入れる…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 - 進学した高校が自分に合わなければ、
途中でやめればよい…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 - がんばって勉強して、将来はリーダー
といわれる人間になりたい…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 - 将来はそれほど豊かでなくても、好き
なことをして暮らしたい…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 - 将来、どんな仕事をしたいのか、自分
でもよくわからない…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5

21 あなたにとってよい高校とは、どんな学校ですか。

- | | | | | | |
|--|-------------|------------|--------------|---------------|----------------|
| | とても
そう思う | 少し
そう思う | なんとも
いえない | あまり
そう思わない | まったく
そう思わない |
|--|-------------|------------|--------------|---------------|----------------|
- 校舎や運動場などの施設や設備が
整っている高校…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 - 勉強に熱心な人が多く、たくさん
の人が大学に進学している高校…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 - 規則を守り、生活のきちんとしている
生徒の多い高校…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 - その学校の卒業生の多くがよい仕事に
ついている高校…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 - スポーツや芸能などで、世間的に名が
うれている高校…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 - 入学時の偏差値が高く、入るのが
むずかしい高校…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 - 宗教的な信念によって教育しているとか、
建学の精神がしっかりしているような
高校…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 - 大学にそのまま入れるような高校…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 - 地域の人たちから評判のよい高校…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5

22 あなたは高校生活で、次のようなことをしてみたいと期待していますか。

- | | | | | |
|--|-------------|-------------|---------------|----------------|
| | とても
そう思う | かなり
そう思う | あまりそう
思わない | ぜんぜん
そう思わない |
|--|-------------|-------------|---------------|----------------|
- 大学進学のために勉強したい…………… 1 — 2 — 3 — 4
 - 学校行事（体育祭・文化祭）に積極的に参加したい…………… 1 — 2 — 3 — 4
 - 異性の友だちと交際したい…………… 1 — 2 — 3 — 4
 - 校則・服装などがきびしくないので自由になりたい…………… 1 — 2 — 3 — 4
 - 部活動を熱心になりたい…………… 1 — 2 — 3 — 4
 - アルバイトをしたい…………… 1 — 2 — 3 — 4
 - バイクの免許をとりたい…………… 1 — 2 — 3 — 4
 - 友だちと旅行がしたい…………… 1 — 2 — 3 — 4
 - 職業に役立つ資格・技術を身につけたい…………… 1 — 2 — 3 — 4
 - 趣味・スポーツに専念したい…………… 1 — 2 — 3 — 4
 - のんびり青春を楽しみたい…………… 1 — 2 — 3 — 4
 - 将来もつきあえるような友だちを見つけたい…………… 1 — 2 — 3 — 4
 - ボランティア活動してみたい…………… 1 — 2 — 3 — 4

23 あなたが実際に進学する高校についてお聞きします。

- あなたが進学する高校は、単願でしたか、それとも併願でしたか。
 - 単願だった
 - 併願だった
- 公立高校ですか、私立高校ですか。
 - 公立高校
 - 私立高校
- 男女共学ですか、別学ですか。
 - 共学
 - 別学
- あなたが進学する高校は、偏差値ではだいたいどのランクにあてはまりますか。

62以上	61～55	54～50	49～45	44以下	わからない
1	2	3	4	5	6

5) 進学する高校は、受験した高校の中では第1志望でしたか。

1. 1校しか受験しなかったので、当然第1志望だった
2. 複数の高校を受験した中の第1志望だった
3. 第1志望ではなかった

6) あなたの進学する高校は、はじめから希望した学校ですか。

1. はじめからぜひ入学したかった学校
2. はじめからやや入学したかった学校
3. どちらともいえない
4. はじめはやや入学したくなかった学校
5. はじめはまったく入学したくなかった学校

24 あなたの受験した高校のことをお聞きします。

1) 今度の入試であなたが受験した高校の数を書いてください。

公立……()校 私立……()校

2) そのうち合格した学校はいくつですか。

公立……()校 私立……()校

3) あなたが受験した高校のタイプ全部に○をつけてください。

1. 伝統のある普通科高校
2. 新しい普通科高校
3. 単位制高校
4. 総合学科高校
5. 職業科高校
6. 大学附属の私立高校
7. その他()

注「普通科高校」は理数科、英語科をふくむ。

4) 私立の高校を受験した人だけにお聞きします。(受験しなかった人は、次の5)に進んでください)

あなたは、受験した私立高校に進学するつもりがありましたか。

1. 公立に合格しても、行くつもりだった
2. 公立に合格したら、行かない
3. どちらともいえない

5) あなたは推薦入試を受けましたか。

1. 受けなかった
2. 私立の推薦入試を受けた
3. 公立の推薦入試を受けた

6) 推薦入試を受けた人だけにお聞きします。(受けなかった人は、次の**25**に進んでください)

(1) あなたはその推薦入試に合格しましたか。

1. 合格した
2. 合格しなかった

(2) 推薦入試を受けてみて、次のことをどれくらい感じますか。

- そう感じる どちらともいえない そう感じない
1. ふつうの入試の方がよい…………… 1—————2—————3
 2. 面接の受け方がわからなかった…………… 1—————2—————3
 3. ふだんの授業でがんばってきてよかった…………… 1—————2—————3

25 あなたの成績は、学年でどのくらいですか。

上の方 中の上 中くらい 中の下 下の方
1—————2—————3—————4—————5

26 あなたは将来どんな進路へ進むつもりですか。○を1つつけてください。

1. 中学または高校までで就職したい
2. 専門学校へ行くつもり
3. 短期大学へ行くつもり
4. まあまあの4年制大学へ行くつもり
5. むずかしい4年制大学へ行くつもり

～以上で終わりです。たくさん質問に答えてくださって
ありがとうございました。～

資料2 基礎集計表

単位：サンプル数、[1]、[2]以外はパーセント

質問項目		全体	性別		
			男子	女子	
サンプル数		1,655	857	798	
[1]	性別	1. 男子 2. 女子	857 798		
[2]	進路	1. 進学（定時制・専門学校を含む） 2. 就職 3. 未定	98.0 0.7 1.3	97.7 1.0 1.3	
[3]	高校入試について、次のような不安や悩みがどれくらいあったか	不安や悩みの 学校選びの	1. とてもあった	14.2	19.2
			2. わりとあった	28.5	33.5
			3. どちらともいえない	16.5	15.3
			4. あまりなかった	23.3	23.5
			5. ぜんぜんなかった	17.5	8.6
		親との意見の くいちがいの 悩み	1. とてもあった	7.2	9.0
			2. わりとあった	14.5	15.7
			3. どちらともいえない	13.5	10.4
			4. あまりなかった	26.4	27.7
			5. ぜんぜんなかった	38.5	37.3
		合格できるか どうかという 不安	1. とてもあった	35.0	50.1
			2. わりとあった	22.5	24.6
			3. どちらともいえない	15.4	10.4
			4. あまりなかった	12.6	11.0
			5. ぜんぜんなかった	14.6	3.9
		落ちたら恥ず かしいという 不安	1. とてもあった	21.2	21.2
			2. わりとあった	17.1	26.7
			3. どちらともいえない	15.5	20.2
4. あまりなかった	16.5		18.0		
5. ぜんぜんなかった	29.6		13.9		
面接ではどの よきな評価を されるのか不 安	1. とてもあった	19.7	22.4		
	2. わりとあった	23.5	33.8		
	3. どちらともいえない	18.5	16.8		
	4. あまりなかった	15.3	14.7		
	5. ぜんぜんなかった	22.9	12.3		
内申書は合否 にどのくらい かわっていか るのか不安	1. とてもあった	19.0	23.8		
	2. わりとあった	23.0	30.8		
	3. どちらともいえない	23.6	20.0		
	4. あまりなかった	15.3	17.7		
	5. ぜんぜんなかった	19.0	7.7		
[4]	最も役立つ た相談相手	学校を選ぶとき	1. 親	35.2	47.8
			2. 友だち	16.1	14.4
			3. 学校の先生	16.5	15.4
			4. 先輩	2.9	1.9
			5. 塾の先生	14.1	11.0
			6. その他	15.1	9.6
		勉強の仕方がわ からなくなつた とき	1. 親	4.4	6.3
			2. 友だち	21.1	26.0
			3. 学校の先生	9.5	7.7
			4. 先輩	1.0	1.0
			5. 塾の先生	45.7	45.7
			6. その他	18.3	13.3

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
4	最も役立った相談相手	ときが親の希望や意見がかった ときが親の希望や意見がかった ときが親の希望や意見がかった ときが親の希望や意見がかった ときが親の希望や意見がかった ときが親の希望や意見がかった	1. 親	12.3	14.7	9.7
			2. 友だち	27.3	17.4	38.0
			3. 学校の先生	16.4	16.7	16.0
			4. 先輩	0.6	0.6	0.7
			5. 塾の先生	10.8	11.9	9.7
			6. その他	32.5	38.7	26.0
	不安になつたのか	1. 親	22.6	18.8	26.5	
		2. 友だち	40.4	36.9	44.2	
		3. 学校の先生	7.0	7.4	6.6	
		4. 先輩	1.3	1.0	1.6	
		5. 塾の先生	13.8	14.4	13.1	
		6. その他	14.9	21.5	8.0	
5	入試をひかえて、次のように思ったり、行動したことがどれくらいあったか	なんだかイライラする	1. いつもそうだった	15.4	15.1	15.8
			2. ときどきそうだった	35.3	27.0	44.3
			3. どちらともいえない	13.0	13.2	12.7
			4. あまりそうでなかった	16.1	16.3	15.9
			5. ぜんぜんそうでなかった	20.2	28.4	11.3
		勉強が手につかない	1. いつもそうだった	24.2	26.2	22.1
			2. ときどきそうだった	33.0	26.5	40.0
			3. どちらともいえない	17.4	17.1	17.7
			4. あまりそうでなかった	12.9	13.0	12.7
			5. ぜんぜんそうでなかった	12.6	17.2	7.6
		よく眠れない	1. いつもそうだった	6.5	7.1	5.8
			2. ときどきそうだった	14.7	10.4	19.3
	3. どちらともいえない		14.6	12.9	16.4	
	4. あまりそうでなかった		21.1	18.5	23.8	
	5. ぜんぜんそうでなかった		43.2	51.1	34.7	
	家族に口をきかされたり、あたる	1. いつもそうだった	15.4	14.4	16.6	
		2. ときどきそうだった	26.0	20.0	32.4	
		3. どちらともいえない	17.2	16.7	17.7	
		4. あまりそうでなかった	17.5	18.4	16.6	
		5. ぜんぜんそうでなかった	23.9	30.4	16.8	
	学校で友だちとあつたり、す	1. いつもそうだった	1.8	2.1	1.4	
		2. ときどきそうだった	4.7	4.7	4.6	
		3. どちらともいえない	13.3	15.4	11.2	
		4. あまりそうでなかった	23.4	19.6	27.5	
		5. ぜんぜんそうでなかった	56.8	58.2	55.3	
	自分の受験する学校名を友だちに知られたい	1. いつもそうだった	8.0	8.0	8.0	
		2. ときどきそうだった	10.6	6.4	15.2	
		3. どちらともいえない	13.4	12.3	14.6	
		4. あまりそうでなかった	14.9	12.3	17.7	
		5. ぜんぜんそうでなかった	53.1	61.1	44.5	
	今のまま入試をむかえて、志望校に合格できるか不安	1. いつもそうだった	27.8	22.7	33.2	
		2. ときどきそうだった	27.6	24.0	31.6	
		3. どちらともいえない	16.5	17.3	15.6	
		4. あまりそうでなかった	12.2	13.2	11.2	
		5. ぜんぜんそうでなかった	15.9	22.9	8.4	
	学校を休んで、勉強をした方がいい	1. いつもそうだった	8.6	9.1	8.0	
2. ときどきそうだった		13.0	11.0	15.2		
3. どちらともいえない		19.4	17.7	21.3		
4. あまりそうでなかった		14.0	12.0	16.1		
5. ぜんぜんそうでなかった		45.0	50.2	39.3		

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
5	入試をひかえて、次のように思ったか、行動したことがどれくらいあったか	とを意識する	1. いつもそうだった	12.0	11.7	12.4
			2. ときどきそうだった	21.9	19.9	24.1
			3. どちらともいえない	22.0	19.4	24.7
			4. あまりそうでなかった	20.0	19.6	20.6
			5. ぜんぜんそうでなかった	24.0	29.4	18.2
		た方が役に立つ	1. いつもそうだった	23.7	26.3	21.0
			2. ときどきそうだった	18.1	17.0	19.3
			3. どちらともいえない	35.1	32.0	38.3
			4. あまりそうでなかった	5.9	5.7	6.1
			5. ぜんぜんそうでなかった	17.2	19.0	15.3
		たあいを減らし	1. いつもそうだった	17.6	15.9	19.4
			2. ときどきそうだった	24.4	20.5	28.7
			3. どちらともいえない	18.7	17.9	19.6
			4. あまりそうでなかった	15.0	16.0	13.9
			5. ぜんぜんそうでなかった	24.2	29.6	18.4
6	進路を考えるにあたって、どんなものを参考にしたか	雑誌の単行本や	1. とても参考にした	21.0	17.7	24.7
			2. かなり参考にした	32.7	30.3	35.3
			3. あまり参考にしなかった	29.8	28.7	31.0
			4. まったく参考にしなかった	16.5	23.4	9.1
		の担任の先生の話	1. とても参考にした	21.0	19.8	22.2
			2. かなり参考にした	43.3	42.8	43.9
			3. あまり参考にしなかった	25.4	24.2	26.7
			4. まったく参考にしなかった	10.3	13.2	7.2
		会話の保護者との	1. とても参考にした	19.3	16.1	22.9
			2. かなり参考にした	40.1	40.0	40.3
			3. あまり参考にしなかった	30.9	31.1	30.8
			4. まったく参考にしなかった	9.6	12.9	6.1
		の友だちと	1. とても参考にした	15.8	13.5	18.3
			2. かなり参考にした	40.3	38.4	42.4
			3. あまり参考にしなかった	31.7	32.4	31.0
			4. まったく参考にしなかった	12.2	15.8	8.3
		先輩の部の活動の話	1. とても参考にした	8.2	7.6	8.8
			2. かなり参考にした	14.0	15.5	12.3
			3. あまり参考にしなかった	30.2	29.3	31.2
			4. まったく参考にしなかった	47.6	47.6	47.7
		先生の部の活動の話	1. とても参考にした	7.5	8.2	6.7
			2. かなり参考にした	14.2	13.8	14.6
			3. あまり参考にしなかった	30.6	29.0	32.4
			4. まったく参考にしなかった	47.6	48.9	46.3
の塾や予備校の先生の話	1. とても参考にした	28.9	27.8	30.1		
	2. かなり参考にした	30.2	28.6	31.8		
	3. あまり参考にしなかった	17.8	18.8	16.8		
	4. まったく参考にしなかった	23.1	24.8	21.3		
トパン類の雑誌	1. とても参考にした	29.7	21.8	38.1		
	2. かなり参考にした	37.3	37.7	36.8		
	3. あまり参考にしなかった	22.1	23.3	20.8		
	4. まったく参考にしなかった	10.9	17.1	4.3		
導資料	1. とても参考にした	16.2	13.1	19.6		
	2. かなり参考にした	33.2	30.9	35.6		
	3. あまり参考にしなかった	32.6	32.9	32.2		
	4. まったく参考にしなかった	18.0	23.0	12.6		

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
6	進路を考えるにあたって、どんなものを参考にしたか	校外模試の結果	1. とても参考にした	27.0	24.4	29.7
			2. かなり参考にした	29.5	29.2	29.9
			3. あまり参考にしなかった	23.7	23.3	24.1
			4. まったく参考にしなかった	19.8	23.0	16.3
		地域での評判	1. とても参考にした	9.7	8.7	10.8
			2. かなり参考にした	22.8	25.8	19.6
			3. あまり参考にしなかった	37.2	34.1	40.6
			4. まったく参考にしなかった	30.3	31.4	29.0
		高校の見学会や説明会	1. とても参考にした	40.3	33.2	48.0
			2. かなり参考にした	29.5	30.8	28.2
			3. あまり参考にしなかった	17.3	19.4	15.0
			4. まったく参考にしなかった	12.9	16.6	8.9
7	進学する高校を決めるときに、次のようなことがどれくらい気になったか	あの学校は、よい学校だと評判の悪い学校の世間の評判	1. とても気になった	14.4	14.9	13.9
			2. かなり気になった	14.5	14.4	14.6
			3. 少し気になった	35.5	32.4	38.9
			4. あまり気にならなかった	15.4	14.3	16.7
			5. ぜんぜん気にならなかった	20.1	24.0	15.9
		家から通学するのに近い、遠いのか、通学距離の問題	1. とても気になった	22.7	23.4	21.9
			2. かなり気になった	20.9	20.1	21.8
			3. 少し気になった	27.5	26.0	29.1
			4. あまり気にならなかった	14.0	12.0	16.3
			5. ぜんぜん気にならなかった	14.8	18.5	10.8
		自分の好きなスポーツなどが、さかんに行われているかどうか	1. とても気になった	19.3	25.1	13.0
			2. かなり気になった	12.0	12.3	11.8
			3. 少し気になった	24.1	24.0	24.3
			4. あまり気にならなかった	21.0	15.9	26.4
			5. ぜんぜん気にならなかった	23.6	22.7	24.5
		校舎の立派さや校庭の広さ、設備のよさなど	1. とても気になった	16.3	18.1	14.3
			2. かなり気になった	20.0	20.0	19.9
			3. 少し気になった	30.5	30.6	30.4
			4. あまり気にならなかった	17.7	14.2	21.3
			5. ぜんぜん気にならなかった	15.6	17.1	14.0
		大学の附属校であるとか、有名大学へ入るとかの問題	1. とても気になった	12.4	14.7	10.0
			2. かなり気になった	9.9	9.2	10.6
			3. 少し気になった	18.1	19.0	17.2
			4. あまり気にならなかった	20.6	19.0	22.3
			5. ぜんぜん気にならなかった	39.0	38.2	39.9
普通科か、商業科や理数科などの勉強する内容	1. とても気になった	21.5	18.6	24.6		
	2. かなり気になった	18.0	17.0	19.1		
	3. 少し気になった	24.8	26.5	23.1		
	4. あまり気にならなかった	15.6	13.1	18.3		
	5. ぜんぜん気にならなかった	20.0	24.8	14.9		
男女共学か、男女別学の学校か	1. とても気になった	26.9	26.9	26.8		
	2. かなり気になった	16.2	13.5	19.2		
	3. 少し気になった	19.7	18.3	21.1		
	4. あまり気にならなかった	15.9	15.1	16.8		
	5. ぜんぜん気にならなかった	21.3	26.2	16.1		
公立校か、私立校か	1. とても気になった	47.5	42.0	53.4		
	2. かなり気になった	17.6	16.1	19.2		
	3. 少し気になった	17.2	19.1	15.2		
	4. あまり気にならなかった	6.7	7.2	6.2		
	5. ぜんぜん気にならなかった	11.0	15.6	6.1		

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別				
			男子	女子			
7	進学する高校を決めるときに、次のようなことがどれくらい気になったか	服装や髪型などの生活上の規則がきびしいかどうか	1. とても気になった	19.7	15.5	24.2	
			2. かなり気になった	16.7	13.4	20.3	
			3. 少し気になった	25.5	24.5	26.5	
			4. あまり気にならなかった	17.2	18.6	15.8	
			5. ぜんぜん気にならなかった	20.8	28.0	13.1	
		他校との単位が互換できる	1. とても気になった	3.8	4.6	3.0	
			2. かなり気になった	4.3	5.2	3.3	
			3. 少し気になった	22.5	22.6	22.5	
			4. あまり気にならなかった	25.6	21.3	30.3	
			5. ぜんぜん気にならなかった	43.7	46.2	40.9	
		職場体験などの体験学習を業が取り入れた授	1. とても気になった	5.4	5.8	5.1	
			2. かなり気になった	6.0	5.9	6.1	
			3. 少し気になった	17.0	17.6	16.3	
			4. あまり気にならなかった	27.8	22.6	33.3	
			5. ぜんぜん気にならなかった	43.8	48.0	39.2	
8	この1年間に次のようなものを利用したか	塾	1. ほぼ毎日	11.1	10.9	11.4	
			2. 週に3～4日	40.8	42.4	39.1	
			3. 週に1～2日	24.3	24.4	24.2	
			4. 冬期講習	2.2	1.9	2.6	
			5. 夏期講習	1.8	1.4	2.2	
			6. 利用しなかった	19.7	19.0	20.6	
		補習(校内の)	1. ほぼ毎日	7.1	6.2	8.1	
			2. 週に3～4日	2.5	3.2	1.7	
			3. 週に1～2日	4.1	4.5	3.7	
			4. 冬休み	2.2	1.9	2.4	
			5. 夏休み	4.4	3.9	4.9	
			6. 参加しなかった	79.8	80.3	79.2	
		通信添削	1. ほぼ毎日	7.3	6.3	8.4	
			2. 週に3～4日	4.4	4.3	4.5	
			3. 週に1～2日	11.6	9.8	13.7	
			4. 利用しなかった	76.7	79.7	73.5	
		模擬試験	1. 0回	19.1	20.3	17.8	
			2. 1～2回	20.5	20.4	20.6	
			3. 3～4回	27.3	27.8	26.8	
			4. 5～6回	16.2	14.3	18.3	
			5. 7回以上	16.8	17.2	16.4	
		受験勉強に役立ったか	塾	1. 大変役立った	64.6	65.3	63.8
				2. 少し役立った	19.4	17.3	21.7
				3. どちらともいえない	6.7	7.4	5.8
				4. あまり役立たなかった	1.8	1.5	2.1
5. まったく役立たなかった	7.6			8.5	6.5		
補習(校内の)	1. 大変役立った		8.2	9.1	7.1		
	2. 少し役立った		13.4	11.1	16.4		
	3. どちらともいえない		28.1	23.1	34.3		
	4. あまり役立たなかった		5.5	4.7	6.5		
	5. まったく役立たなかった		44.8	52.0	35.8		
通信添削	1. 大変役立った		12.8	10.9	15.2		
	2. 少し役立った		17.3	14.0	21.2		
	3. どちらともいえない		19.3	17.4	21.6		
	4. あまり役立たなかった		2.8	2.0	3.7		
5. まったく役立たなかった	47.8	55.8	38.3				

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別				
			男子	女子			
8	受験勉強に役立ったか	模擬試験	1. 大変役立った	30.1	30.1	30.2	
			2. 少し役立った	33.6	31.9	35.5	
			3. どちらともいえない	17.4	15.7	19.2	
			4. あまり役立たなかった	5.8	6.0	5.6	
			5. まったく役立たなかった	13.1	16.3	9.5	
9	はじめたか	実際にいつ頃から受験を意識して、勉強に力を入れはじめたか	1. 中学に入ってから	2.1	2.1	2.0	
			2. 2年生の頃から	3.7	3.3	4.1	
			3. 3年生になってすぐ	8.1	8.3	7.9	
			4. 3年の夏休みに入って	23.9	21.4	26.6	
			5. 3年の2学期になって	13.2	12.2	14.3	
			6. 3年の2学期後半になって	17.7	17.4	18.0	
			7. 3年の3学期になって	14.0	13.7	14.3	
			8. 入試直前になって	6.6	7.1	6.1	
			9. とくに意識しなかった	10.7	14.4	6.7	
10	と思うか	入試が終わった今、ふりかえってみて、いつ頃から受験勉強を始めたかよかったと思うか	1. 中学に入ってから	12.5	13.2	11.8	
			2. 2年生の頃から	14.3	12.2	16.6	
			3. 3年生になってすぐ	25.5	23.5	27.6	
			4. 3年の夏休みに入って	25.1	23.1	27.2	
			5. 3年の2学期になって	6.7	8.5	4.8	
			6. 3年の2学期後半になって	4.7	5.3	4.0	
			7. 3年の3学期になって	3.8	4.4	3.2	
			8. 入試直前でよい	2.2	2.8	1.5	
			9. 受験を意識しての勉強は不必要	5.2	6.9	3.4	
11	うか	学校の授業をきちんと受けていけば、家庭でなくても勉強しなくても大丈夫だと思	1. ぜったい大丈夫だと思う	6.0	9.2	2.7	
			2. だいたい大丈夫だと思う	16.7	17.8	15.5	
			3. わからない	16.0	17.4	14.5	
			4. 少し不足すると思う	28.8	23.0	35.0	
			5. ぜったい不足すると思う	32.4	32.6	32.2	
	れると思うか	学校の授業をまじめに受けまじい参考書など、塾に通わなくても、塾に入るよりも高校へ入	1. ぜったい入れる	23.3	25.7	20.6	
			2. だいたい入れる	33.6	31.5	35.8	
			3. わからない	28.3	26.0	30.8	
			4. たぶん入れない	9.0	9.2	8.7	
			5. ぜったい入れない	5.9	7.6	4.0	
	思うか	塾へ行った方が進学に有利だと思	1. ぜったい有利である	26.3	30.6	21.7	
			2. かなり有利である	19.3	19.6	19.0	
			3. やや有利である	29.7	25.3	34.4	
			4. たいして有利でない	10.5	9.0	12.1	
			5. まったく有利でない	2.8	3.0	2.5	
			6. わからない	11.5	12.5	10.3	
	塾や予備校に通っていたか	通っていたか		1. 通っていない	24.3	22.6	26.1
				2. 通っていた	75.7	77.4	73.9
日数		(通っていた人のみ)	かどた通ったのは、塾	1. 週1日	4.1	3.5	4.9
				2. 週2日	27.5	26.6	28.4
				3. 週3日	36.6	36.9	36.2
				4. 週4日	19.3	19.1	19.6
				5. 週5日	8.1	9.4	6.6
				6. 週6日	2.9	2.7	3.1
				7. 週7日	1.6	1.9	1.2
				1. 学校の授業の補習をする塾	41.4	38.3	44.8
	2. 受験のために勉強する塾			49.7	50.8	48.5	
	3. 難関高校への進学を目指す塾			8.9	10.9	6.7	

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別					
			男子	女子				
17	高校入試の感想	勉強は根を	1. そう思う	13.3	15.6	10.7		
		つめてやら	2. まあそう思う	25.5	26.6	24.3		
		なかつたが	3. あまりそう思わない	41.1	37.4	45.1		
		それでよか	4. そう思わない	20.1	20.4	19.8		
		つたと思っ	1. そう思う	50.2	50.2	50.2		
		切だと思っ	2. まあそう思う	33.6	32.3	34.9		
		ることが大	3. あまりそう思わない	11.3	10.4	12.4		
		や	4. そう思わない	4.9	7.2	2.5		
		では、終	1. そう思う	35.2	34.6	35.9		
		わった今	2. まあそう思う	24.7	22.0	27.6		
は、天国	3. あまりそう思わない	23.8	23.2	24.4				
の気分	4. そう思わない	16.3	20.2	12.1				
17	高校入試の感想	高校入試が	1. そう思う	13.1	15.8	10.2		
		体験してみ	2. まあそう思う	19.8	21.8	17.7		
		たらどうと	3. あまりそう思わない	35.3	30.5	40.6		
		なかつた	4. そう思わない	31.7	31.8	31.6		
		た今、入	1. そう思う	27.6	31.7	23.1		
		試が終わ	2. まあそう思う	26.7	23.6	30.2		
		つ	3. あまりそう思わない	27.3	25.2	29.5		
		入試	4. そう思わない	18.4	19.5	17.1		
		すべの	1. そう思う	46.0	41.9	50.5		
		重ねそ	2. まあそう思う	35.5	34.9	36.2		
習の積	3. あまりそう思わない	11.7	13.4	9.8				
み	4. そう思わない	6.8	9.8	3.6				
18	高校入試の感想	入試、入	1. そう思う	54.2	57.2	51.0		
		試、入	2. まあそう思う	33.8	29.0	39.0		
		試、入	3. あまりそう思わない	7.0	7.6	6.3		
		試、入	4. そう思わない	5.0	6.2	3.7		
		コソコソ	1. コソコソ積み重ねていくタイプ	8.5	8.4	8.7		
		積み重ね	2. 始めれば休むことなく続けるタイプ	8.8	7.9	9.8		
		続ける	3. 勉強中にも、ときどき他のことが頭に浮かんでくるタイプ	31.2	30.3	32.3		
		浮かんで	4. 気が向くとやり、向かないとやらないタイプ	51.4	53.5	49.2		
		19	あなたの保護者の方に、どれくらいあてはまるか	受験する高	1. とてもそう	33.8	29.5	38.5
				校	2. わりとそう	35.1	36.1	34.0
を一緒に考	3. 少しそう			18.8	21.4	16.0		
え	4. あまりそうでない			8.0	7.3	8.6		
え	5. ぜんぜんそうでない			4.3	5.7	2.9		
あなたの考	1. とてもそう			12.3	13.6	10.9		
え	2. わりとそう			13.0	14.3	11.5		
えを優先し	3. 少しそう			17.1	17.6	16.5		
る	4. あまりそうでない			27.2	26.2	28.3		
る	5. ぜんぜんそうでない			30.5	28.3	32.7		
19	あなたの保護者の方に、どれくらいあてはまるか	進路選	1. とてもそう	24.2	23.9	24.5		
		びや受	2. わりとそう	29.1	27.7	30.5		
		験の大	3. 少しそう	25.1	25.1	25.1		
		変さを	4. あまりそうでない	13.8	14.2	13.3		
		受	5. ぜんぜんそうでない	7.9	9.0	6.6		
		読めない漢	1. とてもそう	16.0	13.8	18.3		
		字	2. わりとそう	16.1	15.0	17.2		
		や解けない	3. 少しそう	20.3	18.7	22.0		
		問題	4. あまりそうでない	17.8	16.4	19.3		
		を教	5. ぜんぜんそうでない	29.8	36.0	23.2		

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
19	あなたの保護者の方に、どれくらいあてはまるか	「勉強の大切さやおもしろさを話してくれる」	1. とてもそう	7.1	7.6	6.6
			2. わりとそう	9.1	9.5	8.6
			3. 少しそう	16.2	15.7	16.6
			4. あまりそうでない	25.7	21.9	29.8
			5. ぜんぜんそうでない	41.9	45.3	38.3
		「学校の勉強よりも、塾の勉強をがんばりなさい」と言う	1. とてもそう	4.1	6.1	2.0
			2. わりとそう	4.6	5.2	4.0
			3. 少しそう	9.1	11.6	6.4
			4. あまりそうでない	24.3	23.0	25.7
			5. ぜんぜんそうでない	57.8	54.1	61.8
		「いい高校や大学へ行くことが将来のため」と言う	1. とてもそう	11.5	14.2	8.7
			2. わりとそう	9.6	10.7	8.5
			3. 少しそう	12.0	14.8	9.0
			4. あまりそうでない	16.7	18.6	14.6
			5. ぜんぜんそうでない	50.2	41.8	59.2
		「勉強だけが大切なのではない」と言う	1. とてもそう	26.4	24.3	28.8
2. わりとそう			23.2	23.9	22.4	
3. 少しそう			23.6	24.3	22.8	
4. あまりそうでない			14.6	12.3	17.1	
5. ぜんぜんそうでない			12.2	15.3	8.9	
20	次のような考え方についてどう思うか	受験生はやりたくないことがあるが、がんばって勉強するべきだ	1. とてもそう思う	13.4	15.6	11.1
			2. わりとそう思う	22.3	22.5	22.1
			3. 少しそう思う	26.3	24.1	28.6
			4. あまりそう思わない	21.7	18.6	25.1
			5. ぜんぜんそう思わない	16.3	19.3	13.1
		たとえ不合格になっても、高校のランクの高い学校に挑戦したい	1. とてもそう思う	9.8	13.0	6.4
			2. わりとそう思う	13.8	16.3	11.2
			3. 少しそう思う	18.8	19.6	17.8
			4. あまりそう思わない	33.6	27.0	40.7
			5. ぜんぜんそう思わない	24.0	24.1	23.9
		学校生活が楽しいければ、成績にはこだわらない	1. とてもそう思う	20.9	24.6	16.9
			2. わりとそう思う	16.8	16.8	16.8
			3. 少しそう思う	25.6	25.5	25.6
			4. あまりそう思わない	26.8	22.7	31.3
			5. ぜんぜんそう思わない	9.9	10.4	9.4
		ふつうに生活するのに困らないの学力があれば	1. とてもそう思う	28.4	29.3	27.3
			2. わりとそう思う	26.8	25.5	28.2
			3. 少しそう思う	24.6	23.9	25.3
			4. あまりそう思わない	15.4	14.7	16.3
			5. ぜんぜんそう思わない	4.8	6.6	2.9
無理せずに、自分の学力に合った高校に入ればいい	1. とてもそう思う	38.0	37.0	39.0		
	2. わりとそう思う	26.5	26.4	26.7		
	3. 少しそう思う	20.6	19.4	21.9		
	4. あまりそう思わない	10.8	11.1	10.4		
	5. ぜんぜんそう思わない	4.2	6.1	2.0		
そんなに勉強しなくても、どこかの高校には入れる	1. とてもそう思う	17.1	21.5	12.5		
	2. わりとそう思う	13.3	13.2	13.5		
	3. 少しそう思う	24.4	21.9	27.1		
	4. あまりそう思わない	27.6	25.2	30.2		
	5. ぜんぜんそう思わない	17.5	18.2	16.8		

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
20	次のような考え方についてどう思うか	いい 中でやめれば なければ、 進学した高校 が自分に合 わなければ、 強いて、 はリーダー になりた い人間	1. とてもそう思う	4.9	7.0	2.7
			2. わりとそう思う	4.5	5.6	3.3
			3. 少しそう思う	9.2	10.6	7.8
			4. あまりそう思わない	34.1	30.7	37.7
			5. ぜんぜんそう思わない	47.3	46.1	48.5
		いい 中でやめれば なければ、 進学した高校 が自分に合 わなければ、 強いて、 はリーダー になりた い人間	1. とてもそう思う	10.5	13.4	7.3
			2. わりとそう思う	7.5	7.9	7.0
			3. 少しそう思う	14.9	17.2	12.5
			4. あまりそう思わない	34.6	30.5	39.1
			5. ぜんぜんそう思わない	32.5	31.0	34.1
		いい 中でやめれば なければ、 進学した高校 が自分に合 わなければ、 強いて、 はリーダー になりた い人間	1. とてもそう思う	37.3	41.7	32.6
			2. わりとそう思う	23.6	22.1	25.2
			3. 少しそう思う	22.7	20.6	25.0
			4. あまりそう思わない	11.2	9.8	12.8
			5. ぜんぜんそう思わない	5.2	5.8	4.5
		いい 中でやめれば なければ、 進学した高校 が自分に合 わなければ、 強いて、 はリーダー になりた い人間	1. とてもそう思う	20.5	24.3	16.5
			2. わりとそう思う	15.9	16.3	15.5
			3. 少しそう思う	17.5	19.2	15.6
			4. あまりそう思わない	18.4	15.5	21.6
			5. ぜんぜんそう思わない	27.6	24.7	30.7
21	あなたにとってよい高校とは、どんな学校か	いる 高校	1. とてもそう思う	28.7	34.4	22.6
			2. 少しそう思う	37.5	35.2	39.9
			3. なんともいえない	21.1	17.8	24.7
			4. あまりそう思わない	7.5	6.1	9.0
			5. まったくそう思わない	5.1	6.4	3.8
		いる 高校	1. とてもそう思う	17.0	20.6	13.1
			2. 少しそう思う	22.4	21.4	23.5
			3. なんともいえない	30.0	28.4	31.8
			4. あまりそう思わない	16.7	14.5	19.1
			5. まったくそう思わない	13.9	15.0	12.6
		いる 高校	1. とてもそう思う	22.1	25.1	18.8
			2. 少しそう思う	25.9	25.8	26.0
			3. なんともいえない	28.1	27.1	29.3
			4. あまりそう思わない	14.2	12.4	16.0
			5. まったくそう思わない	9.7	9.6	9.9
		いる 高校	1. とてもそう思う	14.9	19.6	9.8
			2. 少しそう思う	24.2	22.3	26.1
			3. なんともいえない	35.1	33.7	36.7
			4. あまりそう思わない	16.6	13.2	20.3
			5. まったくそう思わない	9.2	11.1	7.1
いる 高校	1. とてもそう思う	11.3	15.0	7.4		
	2. 少しそう思う	13.3	13.6	13.0		
	3. なんともいえない	31.5	31.8	31.3		
	4. あまりそう思わない	24.1	18.8	29.9		
	5. まったくそう思わない	19.7	20.8	18.6		
いる 高校	1. とてもそう思う	7.2	10.1	4.1		
	2. 少しそう思う	10.9	11.7	9.9		
	3. なんともいえない	28.7	30.8	26.5		
	4. あまりそう思わない	26.2	20.8	32.1		
	5. まったくそう思わない	27.0	26.6	27.5		

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別		
			男子	女子	
21	あなたにとってよい高校とは、どんな学校か 校 い る よ う な 高 校	1. とてもそう思う	4.7	5.6	3.7
		2. 少しそう思う	5.4	5.6	5.2
		3. なんともいえない	28.6	27.9	29.4
		4. あまりそう思わない	22.6	21.1	24.3
		5. まったくそう思わない	38.7	39.9	37.5
	な 高 校	1. とてもそう思う	11.0	14.3	7.5
		2. 少しそう思う	16.9	17.1	16.6
		3. なんともいえない	29.0	28.7	29.3
		4. あまりそう思わない	20.6	16.9	24.6
		5. まったくそう思わない	22.5	22.9	22.0
	い 高 校	1. とてもそう思う	21.3	23.5	18.9
		2. 少しそう思う	30.4	27.9	33.2
		3. なんともいえない	27.8	28.4	27.2
		4. あまりそう思わない	9.8	7.4	12.3
		5. まったくそう思わない	10.7	12.8	8.4
22	したい	1. とてもそう思う	28.1	30.0	25.9
		2. かなりそう思う	30.3	30.3	30.4
		3. あまりそう思わない	27.5	24.2	31.0
		4. ぜんぜんそう思わない	14.1	15.5	12.7
	加 し た い	1. とてもそう思う	48.4	40.7	56.6
		2. かなりそう思う	33.4	33.1	33.7
		3. あまりそう思わない	13.8	18.8	8.5
		4. ぜんぜんそう思わない	4.5	7.4	1.3
	たい	1. とてもそう思う	25.9	29.8	21.7
		2. かなりそう思う	28.9	27.6	30.3
		3. あまりそう思わない	35.7	31.5	40.1
		4. ぜんぜんそう思わない	9.6	11.1	7.9
	たい	1. とてもそう思う	26.9	25.2	28.7
		2. かなりそう思う	31.5	30.9	32.1
		3. あまりそう思わない	31.6	31.5	31.8
		4. ぜんぜんそう思わない	9.9	12.3	7.4
	心 に し た い	1. とてもそう思う	40.1	45.0	34.9
		2. かなりそう思う	26.4	24.3	28.6
		3. あまりそう思わない	24.2	20.4	28.3
		4. ぜんぜんそう思わない	9.2	10.3	8.1
	を し た い	1. とてもそう思う	44.4	41.8	47.3
		2. かなりそう思う	27.1	27.6	26.6
		3. あまりそう思わない	17.9	19.3	16.4
		4. ぜんぜんそう思わない	10.6	11.4	9.8
い	1. とてもそう思う	25.4	32.4	17.9	
	2. かなりそう思う	15.3	15.6	14.9	
	3. あまりそう思わない	29.0	27.2	30.9	
	4. ぜんぜんそう思わない	30.3	24.7	36.3	
行 が し た い	1. とてもそう思う	45.8	43.2	48.5	
	2. かなりそう思う	30.6	29.6	31.8	
	3. あまりそう思わない	17.1	19.2	14.9	
	4. ぜんぜんそう思わない	6.5	8.0	4.8	
け た い	1. とてもそう思う	50.7	48.5	53.0	
	2. かなりそう思う	30.4	32.4	28.2	
	3. あまりそう思わない	14.0	13.0	15.0	
	4. ぜんぜんそう思わない	5.0	6.0	3.8	

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
22	高校生活で、次のようなことを期待しているか したい	趣味・スポーツに専念したい	1. とてもそう思う	48.3	52.0	44.4
			2. かなりそう思う	28.0	26.4	29.7
			3. あまりそう思わない	18.6	16.0	21.4
			4. ぜんぜんそう思わない	5.1	5.7	4.6
		のんびり青春を楽しみたい	1. とてもそう思う	43.7	39.1	48.5
			2. かなりそう思う	34.5	35.3	33.7
			3. あまりそう思わない	17.0	19.6	14.2
			4. ぜんぜんそう思わない	4.8	5.9	3.6
		将来もつきあえるような友達を見つきたい	1. とてもそう思う	68.3	63.6	73.4
			2. かなりそう思う	23.7	25.7	21.5
			3. あまりそう思わない	5.2	7.0	3.3
			4. ぜんぜんそう思わない	2.8	3.8	1.8
		ボランティア活動をしてみたい	1. とてもそう思う	16.0	12.4	19.8
			2. かなりそう思う	29.1	25.3	33.1
			3. あまりそう思わない	34.9	36.1	33.7
			4. ぜんぜんそう思わない	20.0	26.2	13.4
23	実際に進学する高校	単願か併願か	1. 単願だった	54.7	56.8	52.3
			2. 併願だった	45.3	43.2	47.7
		公立か私立か	1. 公立高校	66.0	61.7	70.6
			2. 私立高校	34.0	38.3	29.4
		男女共学か別学か	1. 共学	83.9	86.5	81.0
			2. 別学	16.1	13.5	19.0
		偏差値はどのくらいか	1. 62以上	18.9	20.6	17.1
			2. 61~55	18.7	18.1	19.4
			3. 54~50	18.9	19.8	17.8
			4. 49~45	12.6	12.1	13.2
			5. 44以下	10.7	9.9	11.5
			6. わからない	20.2	19.5	21.0
		高校受験した中で第1志望だったか	1. 1校しか受験しなかったため、当然第1志望だった	36.7	36.9	36.4
			2. 複数の高校を受験した中の第1志望だった	48.7	46.2	51.4
			3. 第1志望ではなかった	14.6	16.9	12.2
		はじめから入学したかった学校か	1. はじめからぜひ入学したかった学校	41.4	38.5	44.5
		2. はじめからやや入学したかった学校	24.5	25.1	24.0	
		3. どちらともいえない	18.3	22.6	13.7	
		4. はじめはやや入学したくなかった学校	8.8	7.0	10.8	
		5. はじめはまったく入学したくなかった学校	6.9	6.8	7.0	
24	受験した高校の数	公立校	1. 0校	5.2	7.8	2.6
			2. 1校	89.9	88.0	91.8
			3. 2校以上	4.9	4.2	5.6
		私立校	1. 0校	3.6	3.9	3.3
		2. 1校	66.9	63.6	70.5	
		3. 2校	17.4	16.6	18.1	
		4. 3校以上	12.1	15.8	8.1	
	合格した高校の数	公立校	1. 0校	7.8	10.8	4.8
			2. 1校	91.5	88.2	94.8
			3. 2校以上	0.7	0.9	0.4
		私立校	1. 0校	4.2	4.6	3.7
		2. 1校	73.5	71.2	76.2	
	3. 2校	17.4	17.1	17.8		
	4. 3校以上	4.9	7.1	2.4		

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
24	あなた が受験した 高校のタイプ	1. 伝統のある普通科高校	55.0	50.9	59.4	
		2. 新しい普通科高校	15.8	16.1	15.4	
		3. 単位制高校	4.6	4.9	4.3	
		4. 総合学科高校	8.3	8.8	7.9	
		5. 職業科高校	12.6	15.8	9.3	
		6. 大学附属の私立高校	17.6	17.5	17.8	
		7. その他	5.3	5.6	4.9	
	受験した 高校	か があつた つもり がある か	1. 公立に合格しても、行くつもりだった	23.0	26.5	18.9
			2. 公立に合格したら、行かない	60.0	54.5	66.2
			3. どちらともいえない	17.1	18.9	14.9
	推薦入試の 合格 か	か を受 けた か	1. 受けなかった	34.5	38.0	30.7
			2. 私立の推薦入試を受けた	33.7	36.6	30.6
			3. 公立の推薦入試を受けた	31.8	25.4	38.7
	推薦入試の 合格 か	推薦入試の 合格 か	1. 合格した	68.7	70.9	66.5
2. 合格しなかった			31.3	29.1	33.5	
3. そう感じる			14.8	18.9	10.6	
推薦入試を受けての感想	推薦入試を受けての感想	1. そう感じる	14.8	18.9	10.6	
		2. どちらともいえない	40.7	38.1	43.3	
		3. そう感じない	44.5	43.0	46.0	
推薦入試を受けての感想	推薦入試を受けての感想	1. そう感じる	15.9	16.2	15.6	
		2. どちらともいえない	36.0	34.6	37.5	
		3. そう感じない	48.1	49.2	46.9	
推薦入試を受けての感想	推薦入試を受けての感想	1. そう感じる	36.0	34.9	37.0	
		2. どちらともいえない	42.6	40.0	45.1	
		3. そう感じない	21.5	25.1	17.9	
25	か でどのくらい	1. 上の方	11.3	11.9	10.6	
		2. 中の上	22.2	23.8	20.4	
		3. 中くらい	30.6	28.7	32.7	
		4. 中の下	18.5	17.1	20.0	
		5. 下の方	17.4	18.5	16.2	
26	りか 路へ進むつもり	1. 中学または高校までで就職したい	12.3	14.8	9.5	
		2. 専門学校へ行くつもり	24.8	18.1	32.0	
		3. 短期大学へ行くつもり	7.4	3.0	12.2	
		4. まあまあの4年制大学へ行くつもり	35.1	39.2	30.7	
		5. 難しい4年制大学へ行くつもり	20.4	24.8	15.6	